

ITKeeper/NETBegin BB パック ホスティングサービス

ご利用の手引き
(ドメイン管理者用)

第 1.6 版

注意

1. 本書の内容の一部または全部を無断で複製することは禁止されております。
2. 本書の内容は事前の予告無く変更されることがあります。
3. 運用した結果の影響については責任を負いかねますので、ご注意ください。

2010年11月22日 Plesk9.5版 初版発行

2012年2月20日 Plesk9.5版 第1.1版発行

2013年10月28日 Plesk9.5版 第1.2版発行

2013年12月18日 Plesk9.5版 第1.3版発行

2014年5月26日 Plesk9.5版 第1.4版発行

2014年7月1日 Plesk9.5版 第1.5版発行

2014年7月28日 Plesk9.5版 第1.6版発行

フリーダイヤル:0120-060-799

リコージャパン株式会社

リコープロバイダ担当

ご質問はリコーセンターサービスホームページ (<http://itkeeper.ricoh.co.jp/isp/>) の「お問い合わせ」ページよりお問い合わせフォームにてお願いいたします。

ご契約内容の変更等、各種手続きに関しましては最寄りの事業所までお問い合わせください。

必ずお読みください

- ・ 株式会社リコーが提供する、ホスティングサービス（スタートアップクラスⅡ・オーディナリークラスⅡ・ユースフルクラスⅡ・パワーアップクラスⅡ・スーパークラスⅡ、および NETBegin BB パック）の取扱い操作説明・管理操作説明・注意事項・制約事項に付いて記述しています。
- ・ ご契約者にご提供するディスク領域はご契約クラスにより異なります。
- ・ ご契約いただいたホスティングサービスの管理 ID の変更はできません。
- ・ ご契約ホスティングサービスを直接制御するためのログインアカウント(Shell アカウント)の提供はいたしておりません。
- ・ ご契約ホスティングサービスの収納サーバの root 権限は提供できません。
- ・ 匿名 FTP サーバとしての運用はできません。
- ・ ウェブデータ、メールデータ、お客様にて追加・修正されたアカウント等、お客様データについての保証は一切行いません。
- ・ サーバへの負荷が著しく高い CGI の設置や大量メール送信などにより他のユーザ様のご利用サービスに影響が出る場合は、ご利用を制限させていただく場合がございます。
- ・ サポート対応やメンテナンス後の動作チェックなどサービスの正常提供に必要な範囲において、お客様管理画面へログインさせていただく場合があります。管理画面へのログイン状況はセッション画面でご確認いただけます。
- ・ ホスティングサービスの追加機能としてご提供するアプリケーションをご利用の場合、お客様のサーバへのインストール方法までをサポート対象範囲といたします。各アプリケーションの詳細な設定、操作方法、機能説明はサポート対象範囲外となります。
- ・ 以下の場合において一時的にサービスをご利用いただけない場合があります。
 - － 弊社の電気通信設備の保守上または障害上やむをえない場合
 - － 弊社が接続しているインターネット側の電気通信設備等の保守、または障害が発生した場合



お客様にて追加、修正されたアカウント情報、ウェブデータの管理等はお客様にてお願いいたします。機器障害が発生した際はサーバ設定の初期状態まで復旧を行います。ウェブコンテンツの復旧はお客様に行なって頂きます。メールデータの保証は行ないません。
また、ダウンタイムについては障害の度合、内容により異なります。予めご了承くださいませようお願いいたします。

システム要件：管理画面は次のブラウザでご利用いただけます。

- ・ Microsoft Internet Explorer 6 または 7 または 8
- ・ Mozilla Firefox 2
- ・ Mozilla 1.7 以上
- ・ Safari 2.x (MacOS10.4 以上)
- ・ Safari 3.x (MacOS10.4 以上)

※ ログインするには、Web ブラウザで javascript が有効になっている必要があります。

はじめに	6
第 1 章 ご提供サービス	7
1.1 Web サーバ機能	7
1.2 メールサーバ機能.....	9
1.3 その他の管理機能.....	12
第 2 章 インターフェース.....	14
2.1 ユーザ分類	14
2.2 管理画面の構成	15
2.3 管理画面へのログイン	16
2.4 ドメイン管理画面.....	17
2.5 メールアカウント管理画面	21
第 3 章 ホームページの管理.....	23
3.1 ディレクトリ構成.....	23
3.2 コンテンツをアップロードする	24
3.3 CGI を設置する	25
3.4 アクセスを制限する	27
3.5 アクセス状況を確認する	30
3.6 エラー表示をカスタマイズする	33
3.7 ファイルマネージャを利用する	34
3.8 SSL を利用する	36
3.9 データベースを利用する	41
第 4 章 メールの管理.....	46
4.1 メールアドレスを追加する	46
4.2 メールアドレスを変更・削除する.....	49
4.3 メールを転送する.....	50

4.4	受信メールに自動的に返信する	51
4.5	別のアドレスでメールを受信する.....	54
4.6	複数のアカウントで同じメールを受信する	55
4.7	メーリングリストを運用する.....	57
4.8	外出先でメールを確認する	63
4.9	迷惑メールフィルタを利用する	64
4.10	ウイルスチェックを利用する.....	73
4.11	メールサーバ機能を停止する.....	74
 第5章 その他の機能.....		75
5.1	ユーザに Web 用領域を提供する	75
5.2	サイトの利用状況を確認する.....	77
5.3	サイトのバックアップと復元.....	81
5.4	ドメイン管理者のパスワードを変更する	83
5.5	ドメイン管理者のメールアドレスを変更する.....	84
5.6	パスワードを再発行する.....	85
5.7	FTP のパスワードを変更する.....	86
5.8	メンテナンス通知を受信する.....	87
5.9	外部 DNS サーバを利用する.....	90
 お問い合わせ先.....		91

はじめに

本書は、ホスティングサービスをご契約いただいたお客様でドメイン管理者となられる方を対象とした、導入手順等を記述したマニュアルです。本書は以下のような構成になっています。

第1章 ご提供サービス

ホスティングサービスにてご提供するサービスの概要について説明します。

第2章 インターフェース

お客様が実際に操作される管理画面について説明します。

第3章 ホームページの管理

ホームページの公開に関する各種設定方法について説明します。

第4章 メールの管理

電子メールの利用に関する各種設定方法について説明します。




第5章 その他の機能

管理パスワードの変更やサイトのバックアップ方法について説明します。

重要なお願い

初めてホスティングサービスをご利用になる際は、**webadmin 宛メールの受信設定**を必ず実施してください。詳しくは 第5章 5.8「メンテナンス通知を受信する」をご覧ください。

※本文中の記号について

	ご利用上のヒントになるようなポイントについて説明しています。
	ご利用に当たってご注意いただきたい事項について説明しています。
	ご利用サービスの重要な制限事項について説明しています。

第 1 章 ご提供サービス

ホスティングサービスでは、お客様のドメイン名でホームページを公開していただける「Web サーバ機能」と、<ユーザ名@お客様ドメイン名>形式のメールアドレスをご利用いただける「メールサーバ機能」の、大きく 2 種類の機能をご提供いたします。また、ホームページやメールの管理に必要な様々な機能を標準でご提供しています。

本章では、ホスティングサービスにおいてご提供するこれらのサービスの概要について説明します。

1.1 Web サーバ機能

ホスティングサービスでは以下の Web サーバ機能を提供いたします。

- CGI (Perl, SSI, Python, PHP) 機能
- アクセス制限 (保護ディレクトリ)
- アクセス解析
- カスタムエラー
- ファイルマネージャ
- SSL 通信機能 (SSL 用 IP アドレスオプション/SSL 設定代行サービスオプションのご契約が必要です/
お客様にてサーバ証明書をご用意ください)

1.1.1 CGI (Perl, SSI, Python, PHP) 機能

ホスティングサービスではお客様の作成された独自 CGI のご利用が可能です。ご利用にあたっては[第 3 章 3.3 「CGI を設置する」](#)をご参照いただき、制限事項の範囲内をご利用ください。



CGI の作成および設置方法につきましてはサポート外となります。

1.1.2 アクセス制限 (保護ディレクトリ)

保護ディレクトリ機能を使用することで、お客様のホームページにパスワード認証によるアクセス制限を簡単に導入できます。

詳しくは[第 3 章 3.4 「アクセスを制限する」](#)をご参照ください。

1.1.3 アクセス解析

Web サーバへのアクセスログを分析し、Web サイト使用状況レポートを自動的に生成します。生成されたレポートはブラウザ上で表示されます。

詳しくは[第3章 3.5「アクセス状況を確認する」](#)をご参照ください。



Webalizer は英語版のみのご提供となっております。また、フリーウェアとして提供されておりますので、ご利用方法のサポートは行っておりません。



ログマネージャを利用すると、アクセス解析の元データとなる Web サーバのログファイルを直接参照できます。詳しくは[第3章 3.5.1「ログマネージャ」](#)をご参照ください。

1.1.4 カスタムエラー

Web サーバが返す“Error 404”などのエラーメッセージをカスタマイズし、任意の HTML ファイルを表示させることができます。

詳しくは[第3章 3.6「エラー表示をカスタマイズする」](#)をご参照ください。

1.1.5 ファイルマネージャ

FTP ソフトを使用せず、ドメイン管理画面上でお客様の Web コンテンツファイルを管理することができます。

詳しくは[第3章 3.7「ファイルマネージャを利用する」](#)をご参照ください。

1.1.6 SSL 通信機能 (SSL 用 IP アドレスオプション/SSL 設定代行サービスオプション契約限定)

SSL 用 IP アドレスオプション/SSL 設定代行サービスオプションをご契約の場合、認証局にて取得された電子証明書 (サーバ証明書) をドメイン管理画面からインストールしていただくことにより、お客様のホームページ上で安全なデータのやり取りを可能にする SSL 通信の利用が可能になります。

詳しくは[第3章 3.8「SSL を利用する」](#)をご参照ください。

1.2 メールサーバ機能

ホスティングサービスでは以下のメールサーバ機能を提供いたします。

- SMTP 認証 + サブミッションポート (587 番)
- メール転送
- 自動応答
- メールエイリアス
- メールグループ
- メールリングリスト
- Web メール
- 迷惑メールフィルタ
- ウイルスチェック

1.2.1 SMTP 認証 + サブミッションポート (587 番)

SMTP 認証は、メール送信ごとに SMTP (送信) サーバによってユーザ認証を行う機能です。

サブミッションポート (587 番) はメールソフトからのメール送信を受け付けるための専用ポートです。これまで一般的に利用されてきた 25 番ポートの代わりに 587 番ポートを使用するため、迷惑メール対策として 25 番ポートブロック (Outbound Port25 Blocking) を実施しているプロバイダからでもメール送信を行うことが可能です。



ホスティングサービスでは、SMTP 認証+サブミッションポート (587 番) 機能のご利用が必須となっております。お使いのメールソフトのマニュアルをご参照の上、SMTP 認証の有効化と送信ポートの設定変更 (25 番→587 番) を必ず実施してください。



Outlook Express で SMTP 認証+サブミッションポート (587 番) 機能を使用するための設定方法につきましては、別冊の『ホスティングサービスご利用の手引き (エンドユーザ用)』をご参照ください。



ホスティングサービスの SMTP 認証機能は、PLAIN、LOGIN および CRAM-MD5 に対応しております。

1.2.2 メール転送

ユーザが受信したメールを、自動的に他のメールアドレス (1 個) に転送することができます。メール転送の設定は、ドメイン管理画面およびメールユーザ管理画面から行うことができます。

詳しくは第 4 章 4.3 「メールを転送する」をご参照ください。

1.2.3 自動応答

ユーザがメールを受信した際に、あらかじめ作成しておいたメッセージを送信者に自動的に返信します。自動応答には、プレーンテキストまたは HTML 形式で事前に作成されたメッセージを含めることや、添付ファイルを含めることもできます。自動応答の設定は、ドメイン管理画面およびメールユーザ管理画面から行うことができます。

詳しくは[第 4 章 4.4 「受信メールに自動的に返信する」](#)をご参照ください。

1.2.4 メールエイリアス

ユーザのメールアドレスに対して、受信専用の別名（エイリアス）を設定することができます。メールエイリアスの設定は、ドメイン管理画面およびメールユーザ管理画面から行うことができます。

詳しくは[第 4 章 4.5 「別のアドレスでメールを受信する」](#)をご参照ください。

1.2.5 メールグループ

ユーザが受信したメールを、自動的に他のメールアドレス（複数）に転送することができます。メールグループの設定は、ドメイン管理画面およびメールユーザ管理画面から行うことができます。例えば、`info@example.co.jp` のような代表アドレスに届いたメールを複数の担当者が受信するような場合に適しています。

詳しくは[第 4 章 4.6 「複数のアカウントで同じメールを受信する」](#)をご参照ください。

1.2.6 メーリングリスト

ホスティングサービスでは Mailman を使用した本格的なメーリングリストを運用することができます。メーリングリストの作成とメンバーの追加・削除はドメイン管理画面から行うことができます。また、専用のメーリングリスト管理画面にアクセスすることで、さらに詳細なオプションを設定することが可能です。

詳しくは[第 4 章 4.7 「メーリングリストを運用する」](#)をご参照ください。



Mailman はフリーウェアとして提供されておりますので、初期設定以外の運用方法はサポート外となります。

1.2.7 Web メール機能

メールユーザは、Horde を使用した Web メール機能を利用することができます。インターネットに接続できる環境であれば、自宅や外出先など、どこからでもブラウザ上でメールを送受信することができます。

詳しくは[第 4 章 4.8 「外出先でメールを確認する」](#)をご参照ください。



Horde はフリーウェアとして提供されておりますので、ご利用方法のサポートは行っておりません。

1.2.8 迷惑メールフィルタ

メールユーザは、SpamAssassin を使用した迷惑メールフィルタ機能を利用することができます。ドメイン管理者は、メールユーザ単位でブラックリスト・ホホワイトリストの設定や SPAM 判定時の処理方法を選択できます。

詳しくは [第4章 4.9「迷惑メールフィルタを利用する」](#) をご参照ください。

1.2.9 ウイルスチェック

メールユーザが送受信するメールに対して、ウイルスチェックを行います。ウイルスが発見された場合、ウイルスを削除して宛先に送信し、同時に英文の検知メールを送信します。ウイルスチェックはメールアカウント単位で有効・無効を選択できます。

詳しくは [第4章 4.10「ウイルスチェックを利用する」](#) をご参照ください。

1.2.10 メールの制限事項

ホスティングサービスでご提供するメールサーバ機能には以下の制限事項があります。

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| - 送受信可能なメールサイズ | 20MB |
| - 同報メールの宛先数制限 | 300 件（メーリングリスト含む） |
| - 配信メール数制限 | 1000 通/時間（1 アカウントから時間単に送れる件数） |



メールボックスの容量制限により 20MB 未満のメールでも受信できない場合があります。

お客様ご利用メールアカウント（@より前の部分）については以下の制限事項があります。

- 半角英数小文字と"."(ピリオド) "-"(ハイフン) "_"(アンダーバー)で構成されていること。
- "."(ピリオド)が連続していないこと。
- 先頭および最後に"."(ピリオド)が使用されていないこと。
- 以下の記号は利用できません（送受信とも）

() < > , ; : ¥ " [] @

携帯メール等へ転送設定されている場合、上記記号を利用されるケースがみられますので、十分ご注意ください。

- 上記以外の記号や文字の使用方法についてもシステム上ご利用が制限される場合がございます。



nPOP、メールチェッカーなど、メールサーバへ直接アクセスするソフトウェアをお使いになると、メールが正常に受信できなくなる等の不具合が発生する場合があります。これらのソフトウェアのご利用により発生したトラブルについてはサポート外となりますのでご注意ください。

1.3 その他の管理機能

ホスティングサービスでは Web サーバ機能、メールサーバ機能と合わせて以下の管理機能を提供いたします。

- サイトレポート
- サイトのバックアップと復元
- ドメイン管理者用パスワードの変更
- ドメイン管理者用メールアドレス
- パスワードリマインダー
- 外部 DNS サーバの利用（BB パックは不可／別途申込が必要です）

1.3.1 サイトレポート

お客様ドメインのホームページやメールアカウント、トラフィック（データ転送量）や各種機能の利用状況を確認することができます。

詳しくは[第 5 章 5.1 「サイトの利用状況を確認する」](#)をご参照ください。

1.3.2 サイトのバックアップと復元

お客様ドメインの Web コンテンツやメールデータをバックアップし、サーバ上もしくはお使いのコンピュータに保存します。バックアップデータから、いつでもサイトをバックアップ時の状態に復元することができます。

詳しくは[第 5 章 5.2 「サイトのバックアップと復元」](#)をご参照ください。

1.3.3 ドメイン管理者用パスワードの変更

ドメイン管理者は、ドメイン管理画面用のパスワードを変更することができます。初期パスワードはご契約時にお渡しする設定情報確認書に記載されておりますが、セキュリティを高めるために定期的にパスワードを変更してください。

詳しくは[第 5 章 5.3 「ドメイン管理者のパスワードを変更する」](#)をご参照ください。

1.3.4 ドメイン管理者用メールアドレス

ホスティングサービスではお客様ドメインの管理者用メールアドレスとして、webadmin@<お客様ドメイン名>をご提供しています。webadmin はメールアカウント数の制限には含まれません。webadmin には以下のようなメールが配信されます。

- メンテナンス通知などの弊社から重要なお知らせ
- どこにも送信できないエラーメールなど postmaster@<お客様ドメイン名>宛のメール

管理者の方はご利用開始時に、webadmin 宛のメールを受信できるようお使いのメールソフトを設定していただく必要があります。詳しくは第 5 章 5.6 「メンテナンス通知を受信する」をご参照ください。



ドメイン管理者のメールアドレスはお客様ご自身で任意のメールアドレスに変更することができます。詳しくは第 5 章 5.4 「ドメイン管理者のメールアドレスを変更する」をご参照ください。



webadmin メールアカウントの設定を変更または削除されますと重要なメールを受信できなくなる可能性がありますのでご注意ください。

1.3.5 パスワードリマインダー

ドメイン管理画面やメールアカウント管理画面へのログインパスワードを忘れてしまった場合、ドメイン管理者のメールアドレス（メールアカウントのパスワードの場合は自分自身のメールアドレス）にパスワードを通知することができます。

詳しくは第 5 章 5.5 「パスワードを再発行する」をご参照ください。

1.3.6 外部 DNS サーバの利用

BB パックを除くホスティングサービスでは、外部 DNS サーバを利用してドメインを運用することも可能です。外部 DNS サーバを利用される場合、プライマリ DNS サーバの正引きゾーンファイルに弊社の指定するレコード設定を実施していただく必要があります。

詳しくは第 5 章 5.7 「外部 DNS サーバを利用する」をご参照ください。

第 2 章 インターフェース

本章では、お客様が実際に操作される管理画面について説明します。

2.1 ユーザ分類

ホスティングサービスにおけるユーザには以下の 3 種類があります。

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 1. ドメイン管理者 | ドメイン全体を管理する権限を持つユーザ |
| 2. メールアカウント | 電子メールを利用することができるユーザ |
| 3. Web ユーザ | Web 用領域を利用することができるユーザ |

2.1.1 ドメイン管理者

ドメイン管理者は、ドメイン管理画面にログインして次の操作を実行することができます。

- メールアカウントの追加・編集（転送、自動応答、メールグループ）・削除
- SPAM フィルタ、ウイルスチェックの設定
- メールングリストの追加・削除
- 保護ディレクトリの追加・削除
- サイト使用状況の確認
- アクセスログ・エラーログ・FTP ログの確認
- セッション管理
- サイトのプレビュー
- サイトのバックアップおよび復元



ドメイン管理者には、サーバ全体を管理する権限(サーバ管理者の root 権限)はありません。

2.1.2 メールアカウント

メールアカウントの利用者は、メールアカウント管理画面にログインして次の操作を実行することができます。

- メールパスワードの変更
- メール転送の設定
- メールグループの作成・編集
- 自動応答機能の追加・編集
- SPAM フィルタ、ウイルスチェックの設定確認
- Web メール

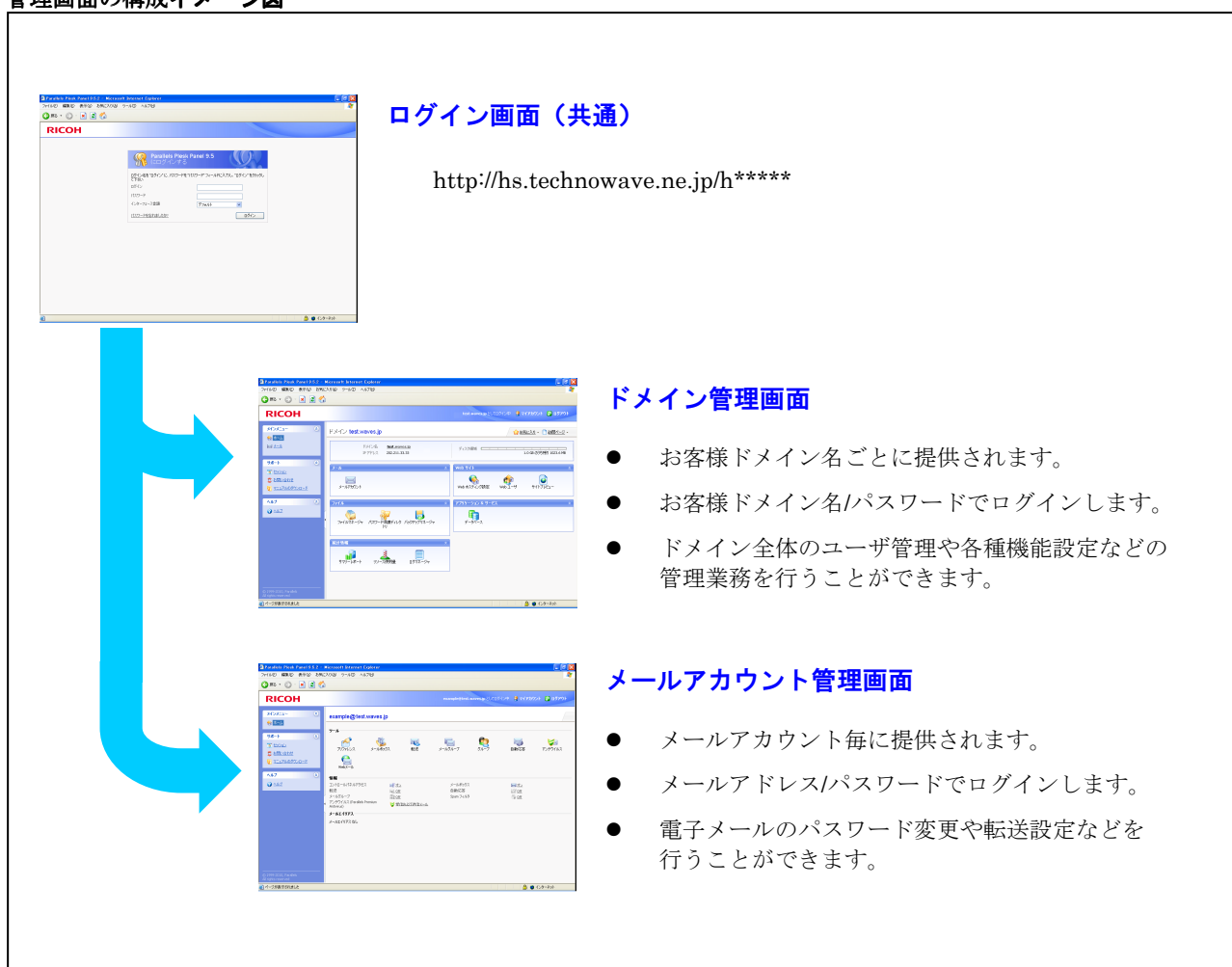
2.2 管理画面の構成

ホスティングサービスの主な操作は、インターネットからお客様専用の管理画面にログインして行います。管理画面は、ログインするユーザによって「ドメイン管理画面」と「メールアカウント管理画面」の2つに分かれています。

どちらの管理画面にログインする場合も、設定情報確認書の「ドメイン管理画面情報」欄に記載されております参照アドレス（下記の形式）に、WWW ブラウザでアクセスします。

`http://hs.technowave.ne.jp/h*****`

管理画面の構成イメージ図



The diagram illustrates the user flow for accessing the management interface. It starts with a 'Common Login Page' (ログイン画面 (共通)) which leads to either a 'Domain Management Page' (ドメイン管理画面) or an 'Email Account Management Page' (メールアカウント管理画面). A large blue arrow points from the login page to the two management pages.

ログイン画面 (共通)

`http://hs.technowave.ne.jp/h*****`

ドメイン管理画面

- お客様ドメイン名ごとに提供されます。
- お客様ドメイン名/パスワードでログインします。
- ドメイン全体のユーザ管理や各種機能設定などの管理業務を行うことができます。

メールアカウント管理画面

- メールアカウント毎に提供されます。
- メールアドレス/パスワードでログインします。
- 電子メールのパスワード変更や転送設定などを行うことができます。

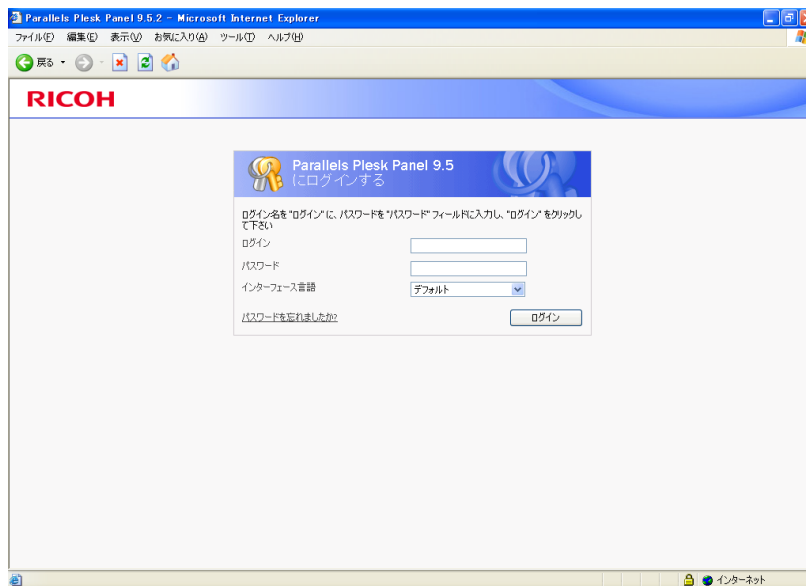


下記の URL からでもログインすることができますが、セキュリティ上の理由により推奨できません。

`https://<お客様ドメイン名>:8443/`

2.3 管理画面へのログイン

参照アドレスにアクセスすると、下記のようなログイン画面が表示されます。



1. ドメイン管理者としてログインする場合
お客様ドメイン名と初期パスワードを入力してください。
2. メールアカウントとしてログインする場合
お使いのメールアドレスとメールアカウント作成時に指定されたパスワードを入力してください。

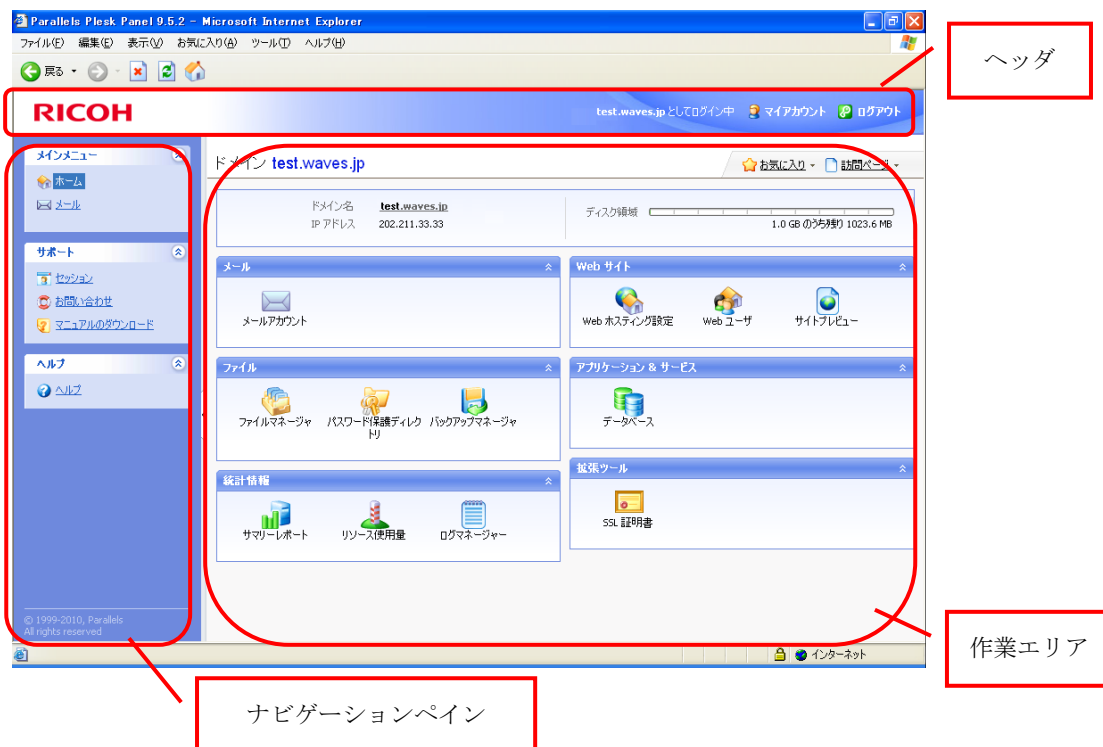


お使いのファイアウォール等の設定で 8443 番ポートへの通信が許可されていない場合、管理画面にアクセスすることができません。このような場合はセキュリティ設定の変更が必要となりますので、お客様のネットワーク管理者にご相談ください。

2.4 ドメイン管理画面

ドメイン管理者としてログインすると、以下の画面が表示されます。

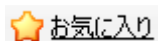
管理画面は、上部右端にログアウトボタンの設置されたヘッダ部分と、画面左側のナビゲーションペイン、および中央部の作業エリアから構成されます。ドメイン管理画面の詳細については、「第3章 ドメイン管理」で解説します。



2.4.1 ホーム

ナビゲーションペインの一般グループから「ホーム」をクリックすると、ホーム画面が表示されます。ホームにはサービスの情報と各種ツールへのショートカットが表示されます。また、ホームは管理画面へのログイン時に最初に表示されるページでもあります。以下、表示される各項目について説明します。

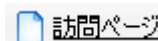
お気に入り



お気に入り

お気に入りを件数制限なく登録することができます。

訪問ページ



訪問ページ

表示したページの履歴について、最新 10 件表示されます。

ドメイン名

お客様のドメイン名が表示されます。

IP アドレス

お客様が現在ご利用の IP アドレスが表示されます。

ディスク容量

現状のディスク容量情報が一日に一度更新されます。


1. メール



メールアカウント

メールアカウントやメーリングリストの設定を行います。



ナビゲーションペインの  [メール](#) をクリックしても同じ設定が行えます。

2. Web サイト



Web ホスティング
設定

お客様ドメイン環境の設定を行います。



Web ユーザ

お客様エンドユーザ用のホームページ公開環境の設定を行います。



サイトプレビュー

お客様ドメインのサイトをプレビューします。

3. ファイル



ファイルマネージャ

管理画面上でお客様の Web コンテンツファイルを管理します。



パスワード保護
ディレクトリ

ディレクトリにユーザ名とパスワードによるアクセス制限を設定します。



バックアップ
マネージャ

サイトのバックアップおよび復元を行います。

4. アプリケーション&サービス



データベース

データベースの管理を行います。
(ユースフルクラスⅡ・パワーアップクラスⅡ・スーパークラスⅡのみ)

5. 統計情報



サマリーレポート

お客様サイトのご利用状況についてのレポートを表示します。表示項目のカスタマイズも可能です。



リソース使用量

お客様のご契約ディスク容量を表示します。



ログマネージャ

アクセスログを参照します。

6. 拡張ツール



SSL 証明書

SSL 証明書の管理を行います。
(スーパークラスⅡのみ)

2.4.2 セッション

ホスティングサービスでは、複数のユーザが管理画面に同時にログインできます。「セッション」では各アカウントによる接続状況を管理します。



無効なセッションが残っている場合は強制終了させることができます。


1. アクティブセッション

ドメイン管理画面およびメールアカウント管理画面への接続状況を表示します。

2. FTP セッション


FTP アカウントの接続状況を表示します。

2.4.3 マイアカウント

 **マイアカウント** ドメイン管理者アカウントの設定を行うことができます。

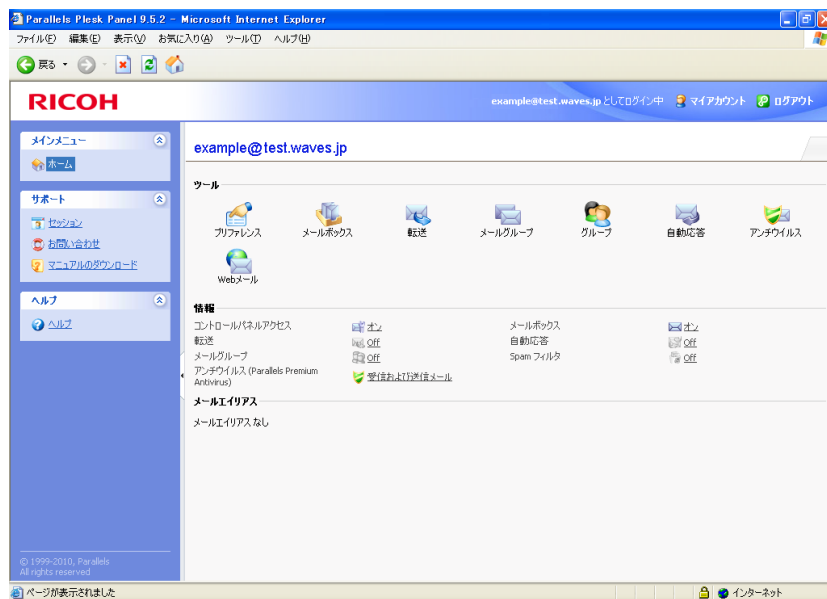
2.4.4 ログアウト

ドメイン管理画面での作業が終了したら、このアイコンをクリックしログアウトして終了します。

 **ログアウト** ドメイン管理画面からログアウトします。

2.5 メールアカウント管理画面

メールアカウントとしてログインすると、以下の画面が表示されます。メールアカウント管理画面の詳細については、「第4章 メール管理」で解説します。



2.5.1 ホーム

ナビゲーションペインの一般グループから「ホーム」をクリックするとホーム画面が表示されます。ホームには Web サイトおよびメールの管理ツールがアイコン形式で表示されます。以下、表示される各項目について説明します。

1. ツール



プリファレンス

メールアカウント管理画面へログインするパスワードを変更できます。



メールボックス

メールアカウントの有効・無効、および割当容量を変更できます。



転送

メール転送の設定を行います。



メールグループ

メールグループを管理します。



グループ

アカウントをメールグループに追加・削除できます。



自動応答

自動応答の設定を行います。



SPAM フィルタ

迷惑メールフィルタを設定・管理します。



アンチウイルス

ウイルスチェックの設定を確認できます。



Web メール

Web メールページを開きます。

2. 情報

メールアカウントの各種機能の状態を表示します。

3. メールエイリアス

メールアカウントのメールエイリアスの状態を表示します。



未設定の場合は「メールエイリアスなし」と表示されます。

2.5.2 セッション

メールアカウント管理画面への接続状況を管理します。

2.5.3 マイアカウント



マイアカウント

メールアカウントの設定を行うことができます。

2.5.4 ログアウト

メールアカウント管理画面での作業が終了したら、このアイコンをクリックしログアウトして終了します。

第 3 章 ホームページの管理

本章では、ホームページ管理に関する各種設定方法について説明します。

3.1 ディレクトリ構成

お客様が作成された Web コンテンツを格納するため、ホスティングサーバのディスク上にお客様の Web 領域（ホームディレクトリ）をご用意しています。

ホームディレクトリの内部は以下のようなディレクトリ構成となっています。`/httpdocs` 以下はドキュメントルートと呼ばれ、WWW ブラウザからアクセス可能な領域となっています。お客様の Web コンテンツは `/httpdocs` ディレクトリの中に転送してください。

/ (ルートディレクトリ)

anon_ftp	使用しません	
bin	使用しません	
cgi-bin	使用しません (CGI プログラムの設置専用ディレクトリにすることもできます)	
conf	使用しません (アクセス権なし)	
error_docs	カスタムエラードキュメントファイルを収納します	
httpdocs	お客様コンテンツを収納します (ドキュメントルート)	
css	使用しません (削除可)	
img	使用しません (削除可)	
picture_library	使用しません (削除可)	
plesk-stat	使用しません	
test	使用しません (削除可)	
.htaccess	設定ファイル (削除・編集可)	※CGI の動作に必要となります
index.htm	トップページ (削除・上書き可)	※サンプルページです
httpsdocs	使用しません	
pd	使用しません (アクセス権なし)	
private	使用しません	
statistics	使用しません (アクセス権なし)	
subdomains	使用しません	
Web_users	使用しません	



.htaccess ファイルは CGI の動作に必要となります。削除されますと CGI が正常に稼動しなくなりますのでご注意ください。
また、編集は可能ですが、弊社のご案内内容を除き、変更後の動作につきまして弊社では責任を負いかねますので、ご注意ください。

3.2 コンテンツをアップロードする

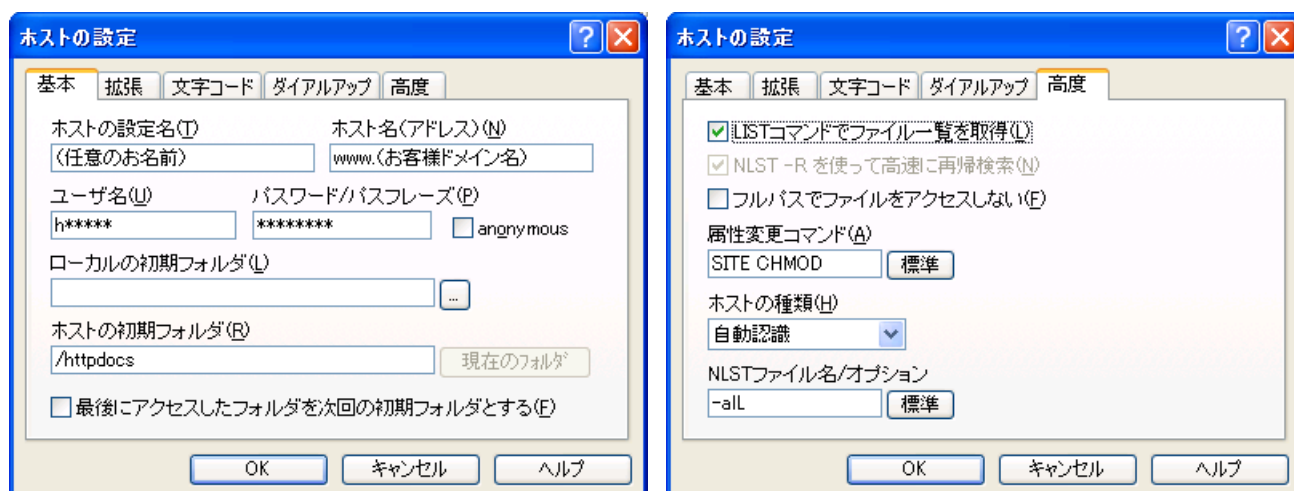
お客様が作成された Web コンテンツ(HTML ファイル、イメージ画像など)をホームページにアップロードするには、ftp コマンドや FTP ソフトを使用してサーバに接続し、ファイルを転送してください。

ホームページ設定情報

・参照アドレス	http://www.お客様ドメイン名
・サーバ名(接続先)	www.お客様ドメイン名
・保存ディレクトリ	/httpdocs
・FTP アカウント名	設定情報確認書に記載
・FTP パスワード	設定情報確認書に記載

参考：FFFTP の設定例

ホストの設定画面にて以下のように設定してください。



「LIST コマンドでファイル一覧を取得」チェックボックスが無効の場合、ファイル一覧が表示されません。基本タブ入力後、高度タブが右図のように設定されていることを確認して [OK] をクリックします。



保存ディレクトリ内に「index.html」と「index.htm」が同時に存在する場合、前者が優先的に表示されます。
index ファイルの表示優先度は index.php > index.html > index.shtml > index.htm です。



ディレクトリ名 (フォルダ名) に「cgi-bin」を使用した場合、ホスティングサーバではホームディレクトリ最上位階層にある /cgi-bin ディレクトリに強制的にリダイレクトされます。



cgi-bin はプログラム専用ディレクトリであり、HTML ファイル等のコンテンツを設置することはできません。

3.3 CGI を設置する

ホスティングサービスではお客様の作成された独自 CGI のご利用が可能です。CGI の作成および設置方法につきましてはサポート外となります。ご利用にあたっては下記の注意事項をご確認のうえ、制限事項の範囲内でご利用ください。

- 以下のパスは CGI プログラムを記述する際に必要となる場合があります。
 - perl: /usr/bin/perl
 - nkf: /usr/bin/nkf
 - sendmail: /usr/sbin/sendmail
- ・ CGI プログラムの拡張子は「.cgi」または「.pl」となります。
- ・ CGI プログラムは「cgi-bin」以外の任意のディレクトリに設置することができます。
- ・ SSI の拡張子は「.shtml」となります。exec コマンドは使用できません。
- ・ PHP の拡張子は「.php」となります。

php のバージョンはサーバのデフォルトでは、php5.1.6 となっておりますが、お客様側にて php5.3.3 も選択可能です。

php5.3.3 を選択するためには、.htaccess に下記を追記していただきますようお願いいたします。



.htaccess のデフォルトの記載は削除しないようご注意ください。



php5.3.3 については cgi 版、fast-cgi 版でのご提供となります。モジュール版は対応不可となっております。

動作方法	追記内容
fast-cgi として動作させる場合	AddHandler fegid-script .php
cgi として動作させる場合	AddHandler php53-script .php



fast-cgi とは、プロセスを一定期間サーバ側に保持することによって、動作速度の向上を可能とするインターフェース仕様の一つです。



fast-cgi として動作させることにより、アクセスの多いプログラムほど動作の高速化が期待されますので fast-cgi を選択することをお勧めいたします。ただし、一部のプログラムが fast-cgi で動作しない場合もございます。その際は通常の cgi をお使いいただくようお願いいたします。



FFFTP など FTP ソフトによっては .htaccess が表示されない場合がございます。その際は管理画面からファイルマネージャ機能をご利用いただくことで、変更が可能となります。

<ファイルマネージャでの追記例>

- fast-cgi 版をご利用の場合

```
ホーム > ファイルマネージャ >  
ファイルマネージャ  
  
ファイル example.co.jp / httpdocs / .htaccess の編集  
以下のエンコードにてオリジナルファイルを表示する: UTF-8  
# このファイルを編集または削除することを禁じます  
Options +ExecCGI +IncludesNOEXEC  
Allow from all  
AddHandler cgi-script .cgi  
AddHandler fcgid-script .php
```

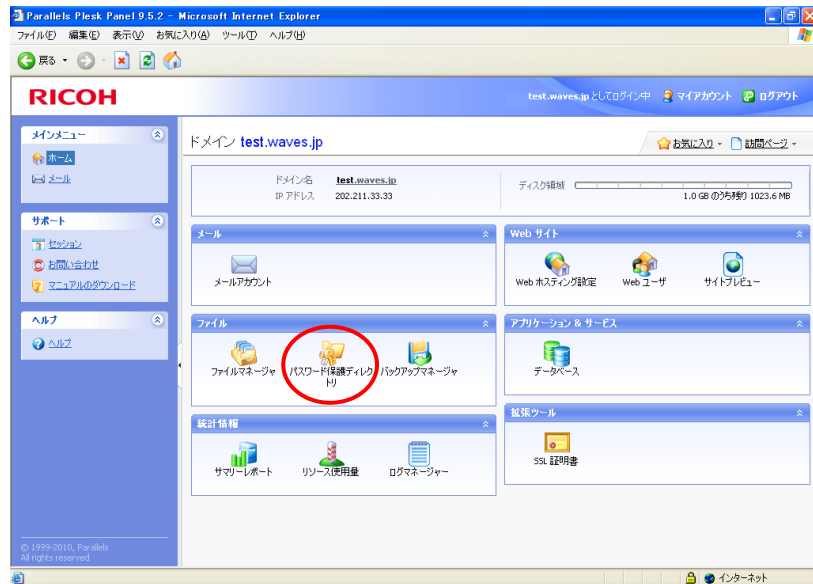
- cgi 版をご利用の場合

```
ホーム > ファイルマネージャ >  
ファイルマネージャ  
  
ファイル example.co.jp / httpdocs / .htaccess の編集  
以下のエンコードにてオリジナルファイルを表示する: UTF-8  
# このファイルを編集または削除することを禁じます  
Options +ExecCGI +IncludesNOEXEC  
Allow from all  
AddHandler cgi-script .cgi  
AddHandler php53-script .php
```

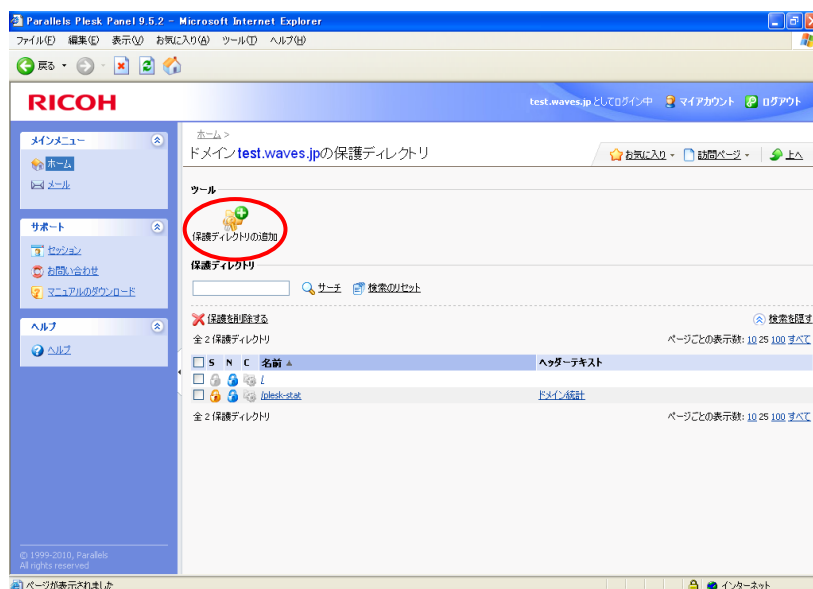
3.4 アクセスを制限する

Web サイトの一部もしくは全部にパスワード認証機能を追加します。パスワードを知っているユーザだけがアクセス可能な Web ページを簡単に作成できます。

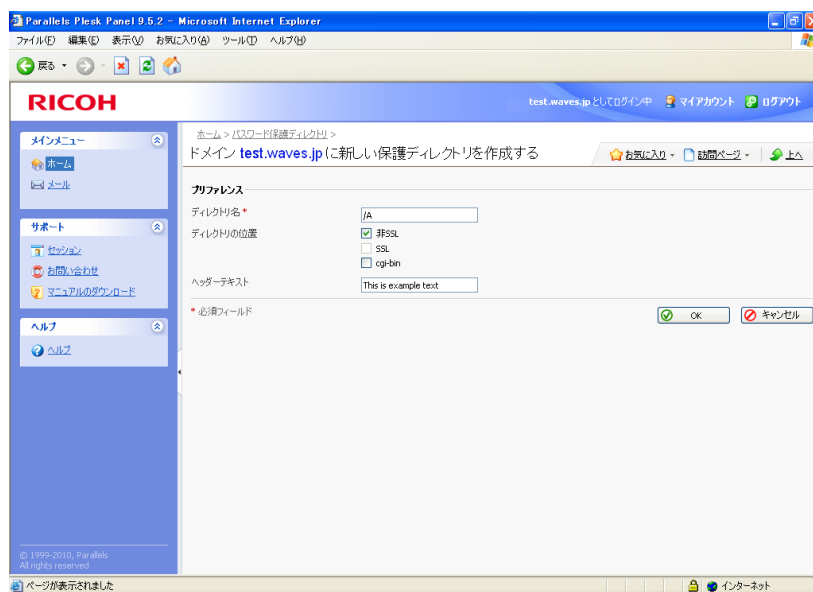
1. ナビゲーションペインの [ホーム] をクリックします。[ファイル] グループの [パスワード保護ディレクトリ] アイコンをクリックします。



2. [保護ディレクトリの追加] をクリックします。



3. パスワード保護の必要なディレクトリの詳細を入力します。



- **ディレクトリ名**

あらかじめ作成しておいた対象ディレクトリの名前を入力します。指定されたディレクトリが作成されていない場合、自動的に作成されます。



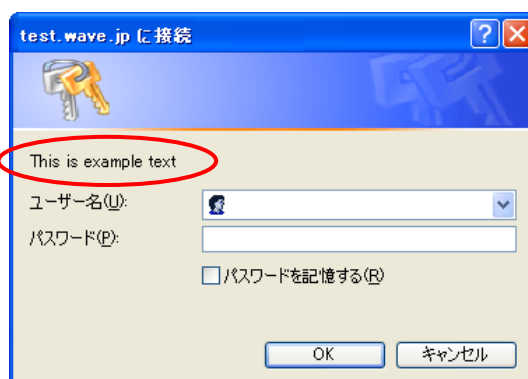
ディレクトリを「/A」と入力した場合は、階層「/httpdocs/A」の指定となります。

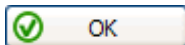
- **ディレクトリの位置**

「非 SSL」を選択してください。

- **ヘッダーテキスト**

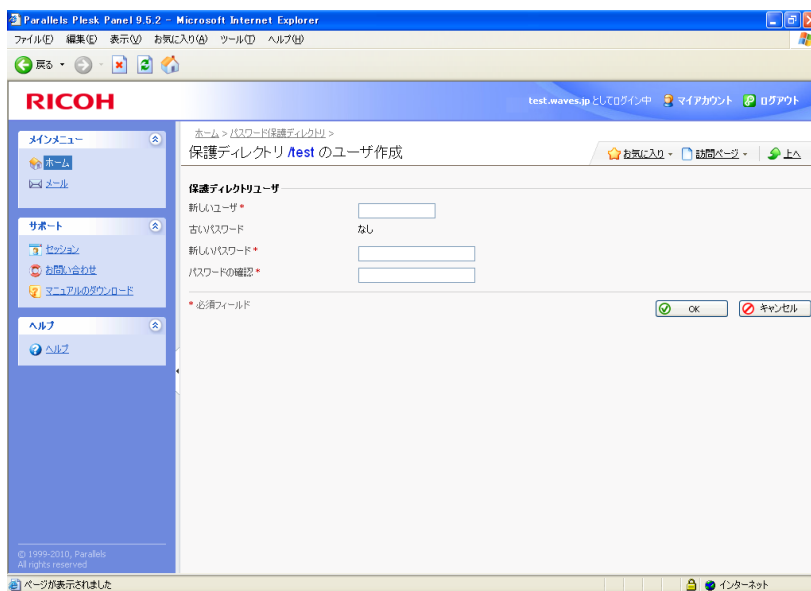
保護領域の詳細、または訪問者が保護付き領域にアクセスしたときに表示されるメッセージを入力します。日本語を使用すると文字化けしますので半角英数字で入力してください。





をクリックすると、指定したディレクトリがパスワードで保護されます。

- 続けて [新しいユーザの追加] をクリックし、アクセスを許可されるユーザを追加していきます。



- **新しいユーザ**

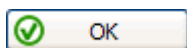
保護された領域へのアクセスに使用するログイン名を指定します。

- **新しいパスワード**

認証に使用するパスワードを入力します。パスワードは半角英数 5~14 文字で指定します。空欄、2 バイト文字、引用記号 (') やユーザ名と同じ文字列を含めることはできません。

- **パスワードの確認**

確認のために同じパスワードをもう一度入力します。



をクリックすると、指定したユーザ名とパスワードで保護ディレクトリにアクセスできるようになります。



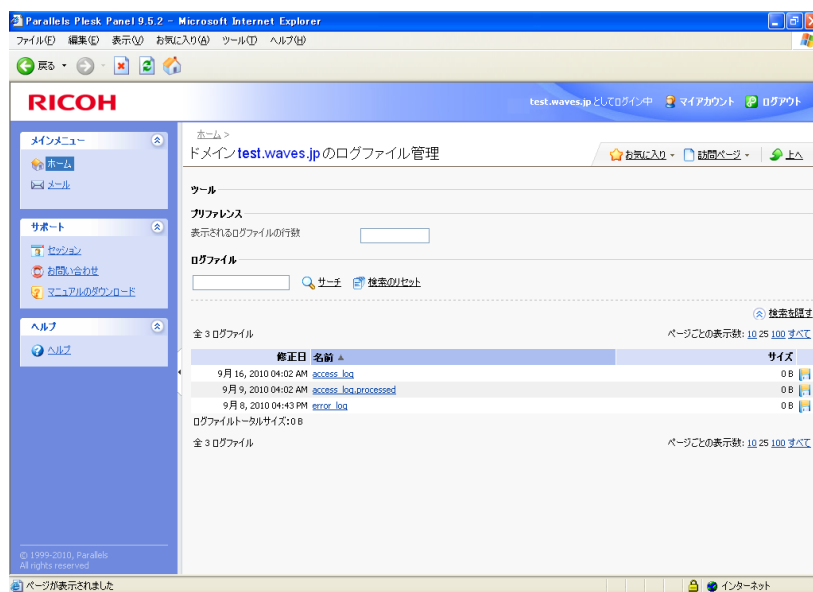
保護されたリソースに対して、許可されたユーザを追加するには、上記 4 の作業を繰り返し実行します。
追加できるユーザ数は、無制限です。

3.5 アクセス状況を確認する

ホームページへのアクセス状況を調べるために、ホスティングサービスには「ログマネージャ」と「Webalizer」という2つのツールが用意されています。必要に応じてお好きな方法を選択してください。

3.5.1 ログマネージャ

1. ナビゲーションペインの [ホーム] をクリックします。[統計情報] グループの [ログマネージャ] アイコンをクリックすると、サーバ上に保存されているログファイルのリストが表示されます。



2. [表示されるログファイルの行数] をログの末尾から数えた行数で指定します。
3. ログファイル名をクリックすると、別ウィンドウでログファイルの内容が表示されます。
4. ログファイルをダウンロードするには、必要なファイルに対応するアイコンをクリックします。



ログファイルの種類について

- access_log には、アクセス元・日時・要求内容・Web サーバの応答が記録されます。
- error_log には、Web サーバで発生したエラーの内容が記録されます。



ログファイルは1MBを超えると圧縮・ローテートされます。過去のログファイルは5世代前まで保存され、それ以上古いものは自動的に削除されます。

3.5.2 Webalizer

Web サーバへのアクセスログを分析し、Web サイト使用状況レポートを自動的に生成します。

主な解析項目

項目名	説明
Hits (ヒット数)	指定されたレポート期間内にサーバがリクエストされた数。リクエストは HTML ページ、画像、音声ファイル、CGI スクリプト等に対して行われ、サーバに対して行われた全てのリクエストは 'Hit' と見なされます。
Files (ファイル数)	サーバに対して、HTML ページや画像、音声ファイル、CGI スクリプト等へのリクエスト要求があった時、リクエストしたクライアントに送信される応答の数。
Pages (ページ数)	page は一般に HTML ドキュメントを指します。拡張子が ".htm"、".html"、".cgi" であるものは全て page と見なされます。この数は page がリクエストされた数のみを表し、ドキュメント中に含まれる画像や音声などは、'Pages' には含まれません。
Visits (訪問数)	ある IP アドレスからサーバへリクエストがあると、そのアドレスの直前のリクエストからの経過時間が計算されます。もし、設定された '訪問タイムアウト' の値よりも経過時間が長い場合、あるいは初めてのリクエストの場合、これは「新規訪問」だと見なされ、'Visits' にカウントされます。
Sites (サイト数)	指定されたレポート期間にサーバへリクエストを行った IP アドレス (サイト) の個別の件数を表します。個々のユーザ(実際の人)の数ではなく、何件のサイトからリクエストがなされたかを示しています。
Kbytes (転送量)	指定された期間にサーバからクライアントへ送信されたデータの総量 (キロバイト) を表します。



'Hits' と 'Files' の関係は、'リクエスト入力' と 'レスポンス出力' と考えることもできます。

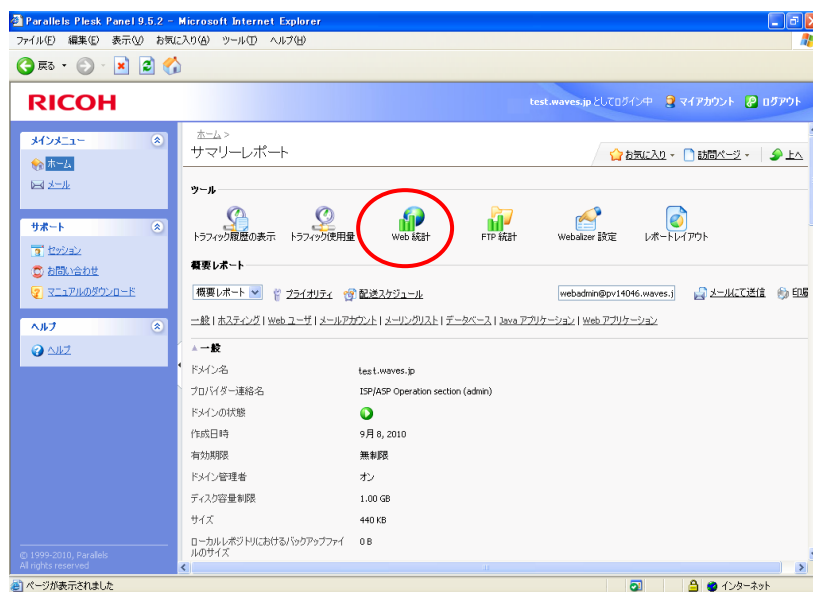


Webalizer についてのさらに詳しい情報を入手するには、<http://www.webalizer.com/> (英語版公式サイト) をご参照ください。



Webalizer はフリーウェアとして提供されておりますので、ご利用方法のサポートは行っていません。

1. ナビゲーションペインの [ホーム] をクリックします。[統計情報] グループの [サマリーレポート] アイコンをクリックすると、Web サイトレポート画面が表示されます。Webalizer によるアクセス解析結果を表示するには [ツール] グループの [Web 統計] アイコンをクリックします。



2. Webalizer 設定

デフォルトでは、Webalizer は自分のサイトから、すなわち Web ページから行った Web ページおよびその他のファイルに対する要求をカウントし、報告します。よって、ユーザのブラウザが自分のサイトから、スクリプト、カスケードスタイルシート、メディアファイルなどの他のファイルの参照を含む単一の Web ページを要求した場合、Webalizer はこれらのファイルの参照を、自分の Web ページが外部から閲覧されたかのように報告します。これによる統計の不正確さを回避するため、次のような操作が可能です。

- 上記のような内部参照、および他のサイトからの参照を隠す。
- 複数のサイトからの参照をグループ化し、単一の場所から参照されたかのように見せかける。
- ダイレクトリクエストを隠す。ユーザがブラウザに URL を入力した自分のサイトにアクセスした場合、ダイレクトリクエストが自分の Web サーバに送信されます。

3. Web 統計

FTP ログインに使用するユーザ名とパスワードを入力すると、Webalizer によるアクセス解析結果が別ウィンドウで表示されます。「Summary by Month」にて解析対象期間を選択すると詳細な月次レポートを表示します。

4. レポートレイアウト

レポートに表示される情報の量を調整することができます。新しいレイアウトの追加や、デフォルトレポートの変更も可能です。

3.6 エラー表示をカスタマイズする

Web サーバが返す“Error 404”などのエラーメッセージをカスタマイズし、エラーの内容に応じて任意の HTML ファイルを表示させることができます。具体的には、あらかじめ定められた名前 of エラーメッセージ・ファイルを所定のディレクトリに FTP で転送することにより、ブラウザ上に表示されるエラーメッセージをカスタマイズします。

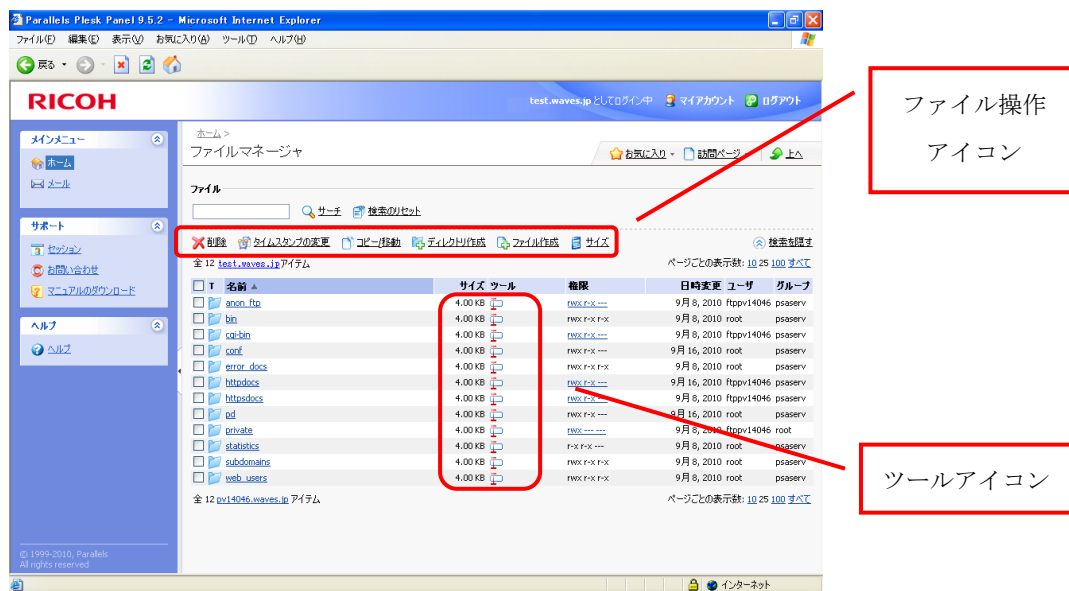
1. 表示させたいエラーメッセージ・ファイルを作成し、所定のファイル名（下表参照）で保存します。
2. FTP でログインし、/error_docs ディレクトリに移動します。
3. エラーメッセージ・ファイルをアップロードします。

コード	応答	意味（例）	エラーメッセージ・ファイル名
400	Bad Request	URL の指定方法に誤りがある	bad_request.html
401	Unauthorized	パスワード認証ページで入力したパスワードが間違っている	unauthorized.html
403	Forbidden	アクセスが禁止されているページにアクセスしようとしている	forbidden.html
404	Not Found	存在しない URL にアクセスしようとしている	not_found.html
405	Method Not Allowed	リクエスト中のメソッドが許可されていない	method_not_allowed.html
406	Not Acceptable	リクエストされるリソースは受取できない	not_acceptable.html
407	Proxy Authentication Required	クライアントは最初にプロキシに対する認証を行わなければならない	proxy_authentication_required.html
412	Precondition Failed	一つ以上のリクエストヘッダフィールドで与えられた前提条件が、サーバでテストされたときに偽であると評価された	precondition_failed.html
414	Request-URI Too Long	サーバが中間処理のために想定している Request-URI より長い場合、サーバはリクエストのサービスを拒否している	request-uri_too_long.html
415	Unsupported Media Type	リクエストのエンティティのフォーマットをリクエストされたリソースがサポートしていない	unsupported_media_type.html
500	Internal Server Error	CGI 等が原因でサーバ内部エラーが発生している	internal_server_error.html
501	Not Implemented	サーバはリクエストを実行するのに必要な機能をサポートしていない	not_implemented.html
502	Bad gateway	ゲートウェイやプロキシなど中間処理を行うサーバが不正なレスポンスを受け取った	bad_gateway.html

3.7 ファイルマネージャを利用する

FTP ソフトを使用せず、ドメイン管理画面上でお客様の Web コンテンツファイルを管理・編集することができます。

1. [ファイル] グループの [ファイルマネージャ] アイコンをクリックすると、次の画面が表示されます。



2. ファイル操作アイコンを使用して、チェックボックスで選択されたファイルやディレクトリに対して次の操作を実行できます。

- [削除] ファイルやディレクトリを削除します。
- [タイムスタンプの変更] タイムスタンプが現在のローカルタイムで更新されます。
- [コピー/移動] ディレクトリやファイルを新しい位置にコピーまたは移動します。
- [ディレクトリ作成] 現在のディレクトリ内に新しいディレクトリを作成します。
- [ファイル作成] ディレクトリに新しいファイルをアップロード、または作成します。

－ ファイルアップロード


お使いの PC からファイルをアップロードするには、[新しいファイルを追加] をクリックし、[ファイルソース] ボックス (または [参照] ボタンでファイルの場所を指定します) でそのファイルの保存場所へのパスを指定して [OK] をクリックします。








ファイルアップロードでは、1 度に 1 ファイルのみアップロードできます。

- ファイル作成

ファイル名を入力します。新しいファイルに HTML タグを挿入できるようにするには、[HTML テンプレートを使用します] チェックボックスを選択して [OK] をクリックしてください。編集画面が表示され、新しいファイルのソースを入力することができます。編集が完了したら、エンコード、改行タイプを選択して [OK] をクリックします。

-  [サイズ] 選択されたファイルやディレクトリの容量を計算します。

3. ツールアイコンを使用して、以下の操作を実行することができます。

-  [名前変更] ファイルまたはディレクトリの名前を変更します。
-  [ブラウザで開く] ファイルまたはディレクトリをブラウザで開きます。
-  [ファイル閲覧] ファイルの内容を閲覧します。
-  [ファイル編集] ファイルのソースコードを編集します。
-  [WYSIWYG エディタ] ファイルをビジュアルエディタで編集します。
(Microsoft Internet Explorer ユーザのみ利用可能)

4. ファイルやディレクトリのアクセス権を変更するには、[権限] 列に表示されたハイパーリンクをクリックします。必要に応じて権限を修正し [OK] をクリックします。

3.8 SSL を利用する

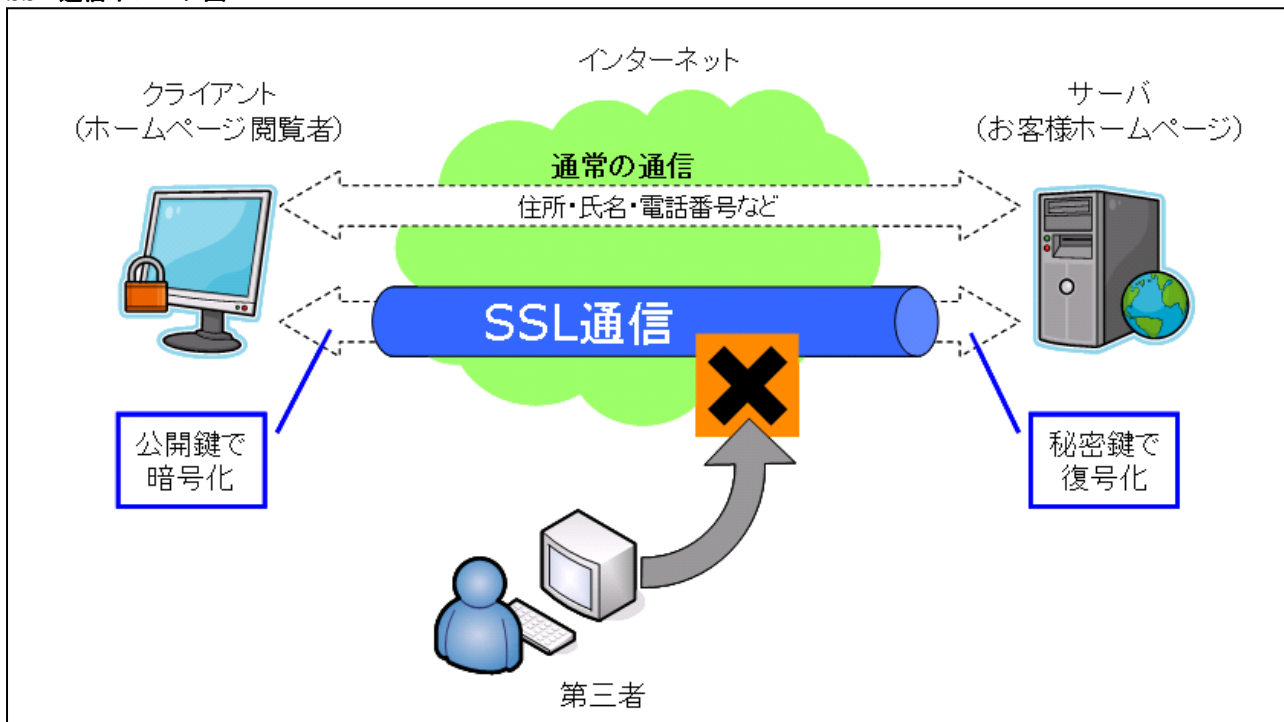
SSL 用 IP アドレスオプション/SSL 設定代行サービスオプションをご契約の場合、認証局にて取得された電子証明書（サーバ証明書）をドメイン管理画面からインストールしていただくことにより、お客様のホームページ上で安全なデータのやり取りを可能にする SSL 通信の利用が可能になります。

3.8.1 SSL の概要

個人情報保護法が 2005 年 4 月より施行されるなど、セキュリティに対する関心が高まる中、ホームページ上での情報のやりとりにもセキュリティ向上が求められてきています。通常、ホームページ上でやりとりされるデータは暗号化されておらず、悪意のある人物によってデータを盗み見られたり、改ざん等がなされたりする危険性が潜んでいます。

SSL(Secure Socket Layer)通信機能を利用すると、サイトごとに独自に用意された秘密鍵と公開鍵を用いてデータを暗号化して通信することにより、訪問者がホームページ上で難しい操作を意識せずに、安全にデータのやり取りを行う事ができます。

SSL 通信イメージ図



オンラインショッピングサイトやアンケートページ、資料請求ページを公開される場合、氏名、住所、電話番号等の個人情報や、クレジットカード番号等の重要な情報のやり取りが発生します。サイトからこのような情報を送信するページを設けている場合には、セキュリティ向上のため、SSL 通信機能を備えることが望ましいといえます。



SSL のご利用はスーパークラス II 限定の追加機能となります。
ITkeeper および NETBegin BB パック各クラスのお客様は、ご契約変更が必要となり、BB パック select のお客様は「SSL オプション」のご契約が必要となります。

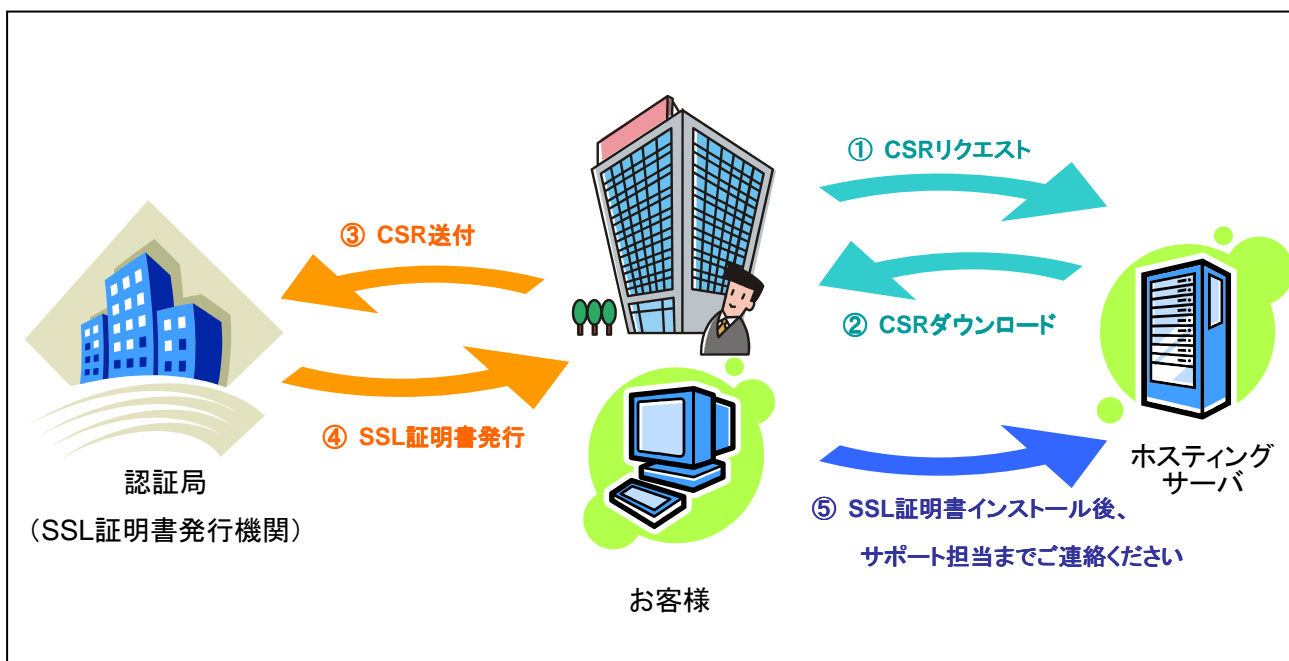
3.8.2 SSL 導入までの流れ

SSL 機能を利用するためには、認証局と呼ばれる SSL 証明書発行機関が発行する SSL 証明書をサーバにインストールする必要があります。また、SSL 証明書の申し込みには CSR（証明書署名リクエスト）と呼ばれるデータファイルが必要となります。

ホスティングサービスでは、CSR の作成、取得から SSL 証明書のインストールまでの一連の作業を、お客様ご自身で実施していただくことができます。

SSL 証明書のインストールが終わりましたら、弊社技術担当にて SSL 通信機能の有効化作業を実施いたしますので、巻末に記載しております弊社サポート担当窓口までご一報ください。

SSL 導入手順のイメージ図



SSL 証明書の取得には別途費用が発生いたします。料金やお手続き等の詳細につきましては証明書を申し込まれる認証局までお問い合わせください。



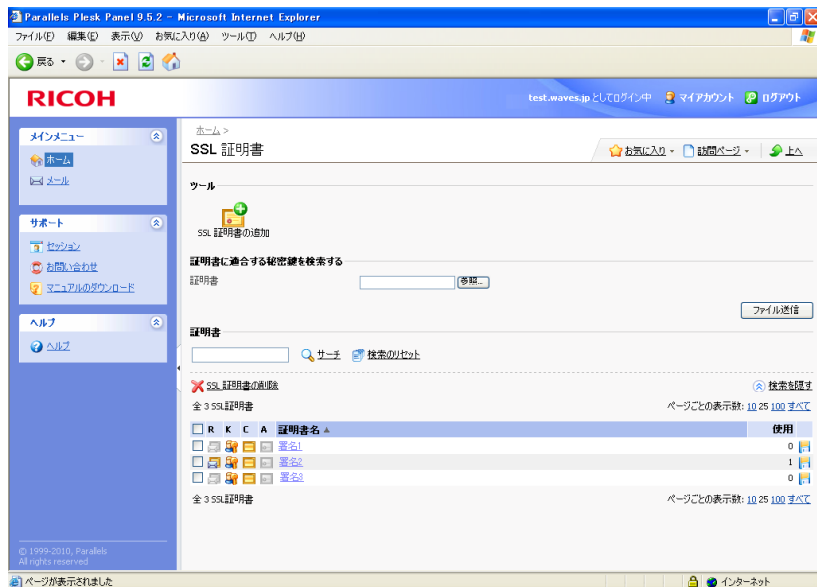
SSL 証明書には有効期限があります。期限切れを避けるためには更新のお手続きが必要となります。有効期限の確認方法や更新のお手続きにつきましては、ご契約されている認証局までお問い合わせください。



弊社ホスティングサービスでは Web サーバアプリケーションとして Apache + OpenSSL を使用しております（認証局へのお手続き時にこの情報が必要になる場合があります）。

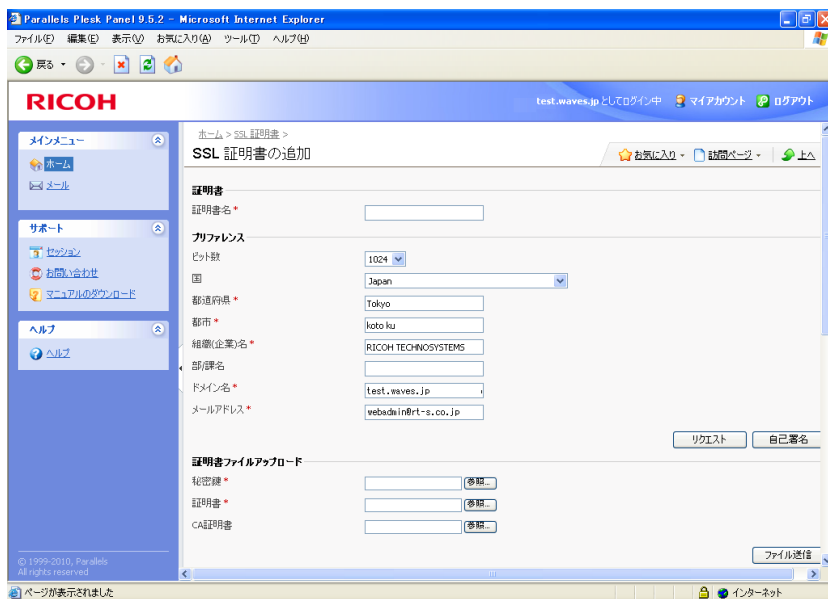
3.8.3 SSLの導入方法

1. ナビゲーションペインの一般グループから [ホーム] をクリックします。[サービス] グループの [証明書] アイコンをクリックすると証明書設定画面が表示されますので、[証明書の追加] をクリックします。



SSL用IPアドレスオプション/SSL設定代行サービスオプションをご契約いただいた場合のみ、[証明書] アイコンが表示されます。

2. 証明書のプロパティを指定します。この情報をもとに暗号化された通信を復号するのに必要な秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。




- 証明書名 管理画面上で証明書を識別するのに役立ちます。
- ビット数 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を推奨します。
- 場所、組織名 入力できるのは 64 文字までです。
- ドメイン名 SSL 証明書を購入するドメインの名前の指定。省略形でないものにしてください。

参考：ホームページアドレスが <http://www.example.co.jp/> の場合

(正しい例) `www.example.co.jp`

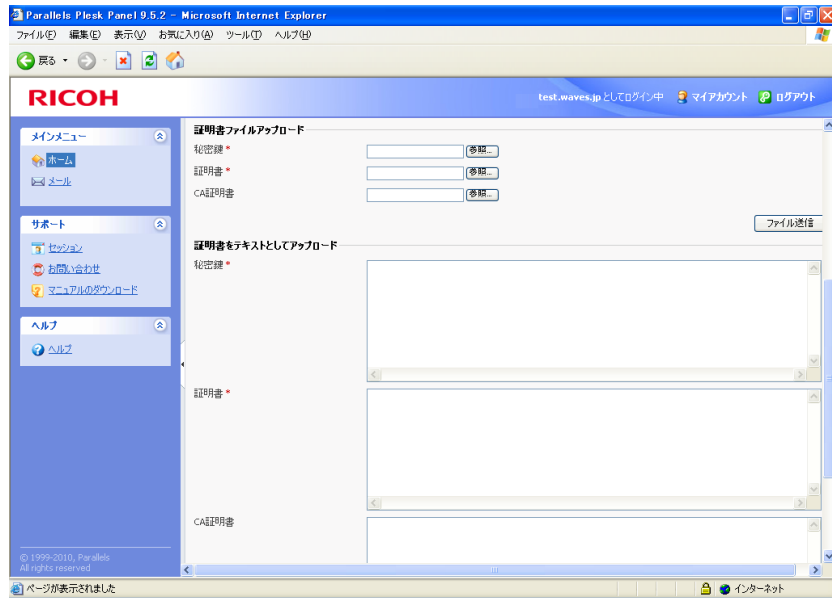
(不十分な例) `example.co.jp`

- メールアドレス ドメイン管理者のメールアドレスを入力します。
3. [リクエスト] をクリックします。秘密鍵と証明書署名リクエストが生成され、サーバ内の所定の場所（リポジトリ）に格納されます。
 4. 証明書一覧が表示されます。 をクリックし、CSR ファイルをダウンロードしてお使いの PC に保存します。
 5. ダウンロードが完了したら、ファイルをテキストエディタで開き、-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST----- と -----END CERTIFICATE REQUEST----- で囲まれたテキストをクリップボードにコピーします。
 6. お使いのメールソフトを起動してメッセージを新規作成し、テキストをクリップボードから貼り付けます。
 7. このメッセージを認証局に送信します。認証局は提供された CSR の情報に応じて SSL 証明書を作成します。



認証局によってはホームページ上の入力フォームに CSR のテキスト入力を求められる場合もあります。詳しくは認証局の問い合わせ窓口までご相談ください。

8. 認証局から SSL 証明書がメールにて送信されて参りましたら、お使いの PC に保存してください。
9. ドメイン管理画面の [証明書の追加] へ戻ります。
10. [証明書ファイルアップロード] の [参照] をクリックし、お使いの PC に保存された証明書を指定します。対応する秘密鍵に対する証明書がアップロードされインストールされます。



以上の作業が終わりましたら、巻末に記載しております弊社サポート担当窓口までご連絡ください。弊社技術担当部門にて、お客様サーバでの SSL 通信機能を有効化する作業を実施させていただきます。



ご連絡いただけない場合、SSL 通信のご利用を開始していただくことができませんので、インストール完了後、なるべくお早目にご連絡ください。

3.9 データベースを利用する

ユースフルクラスⅡ、パワーアップクラスⅡ、スーパークラスⅡをご契約の場合、MySQL によるデータベース機能をご利用いただけます。



作成できるデータベースは1ドメインにつき1個までとなります。

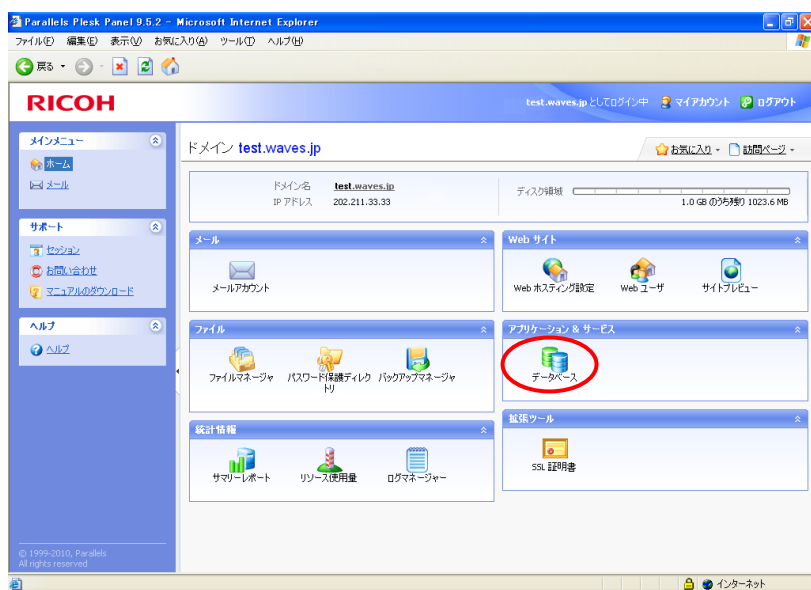


データベースの操作方法についてはサポート外となります。

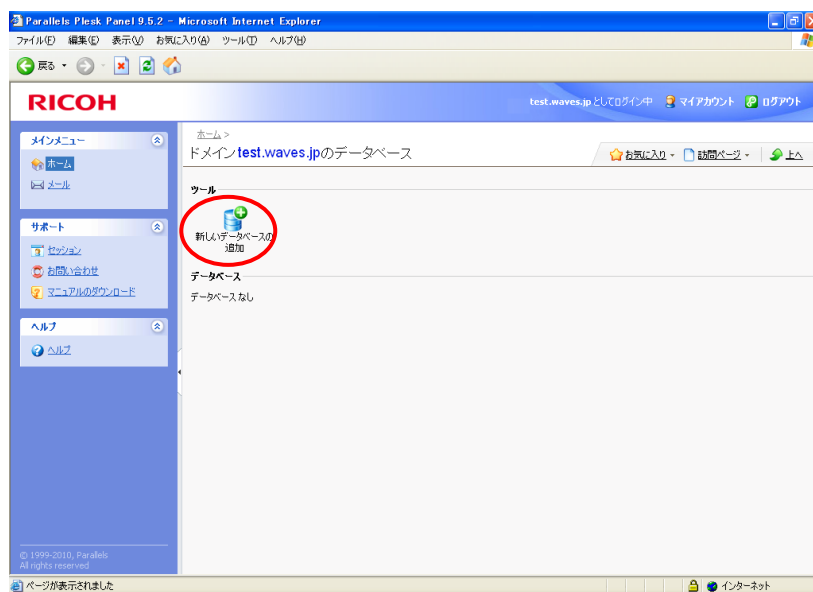
3.9.1 新しいデータベースの追加

データベースを利用するためには、以下の手順を実行します。

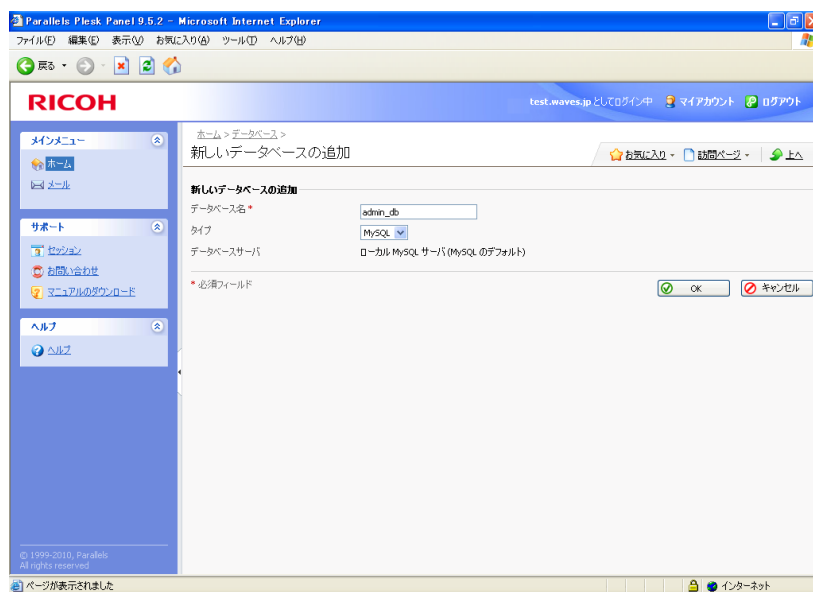
1. ナビゲーションペインの [ホーム] から、[アプリケーション&サービス] グループの [データベース] アイコンをクリックします。



2. [新しいデータベースの追加] をクリックします。

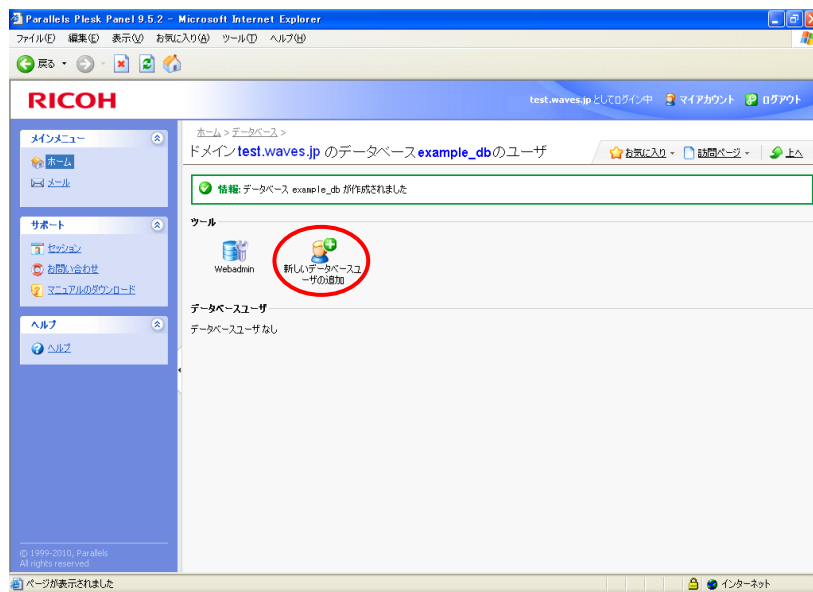


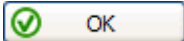
3. 任意のデータベース名を入力し、 ボタンをクリックします。

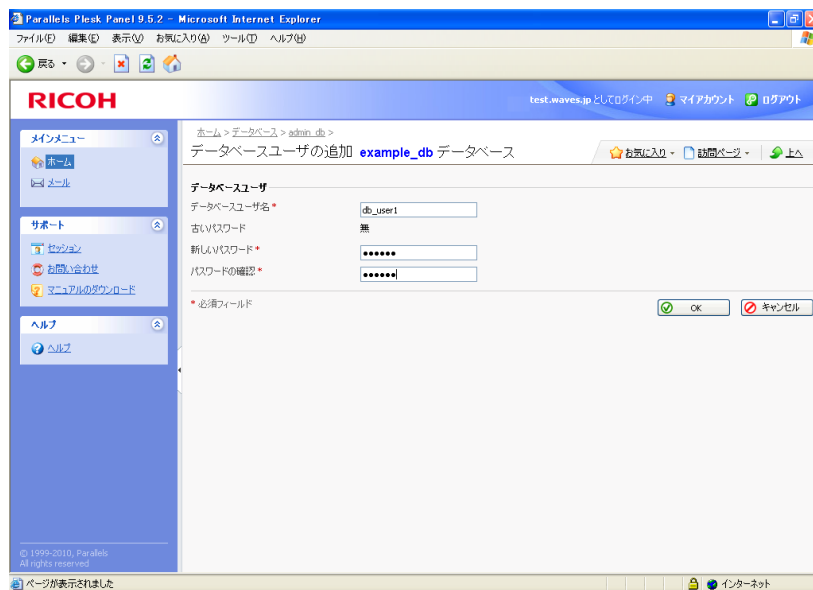


選択できるタイプは MySQL のみとなります。

4. 続けて [新しいデータベースユーザの追加] をクリックします。



5. データベースユーザ名、およびデータベースのパスワードを指定して、 ボタンをクリックします。



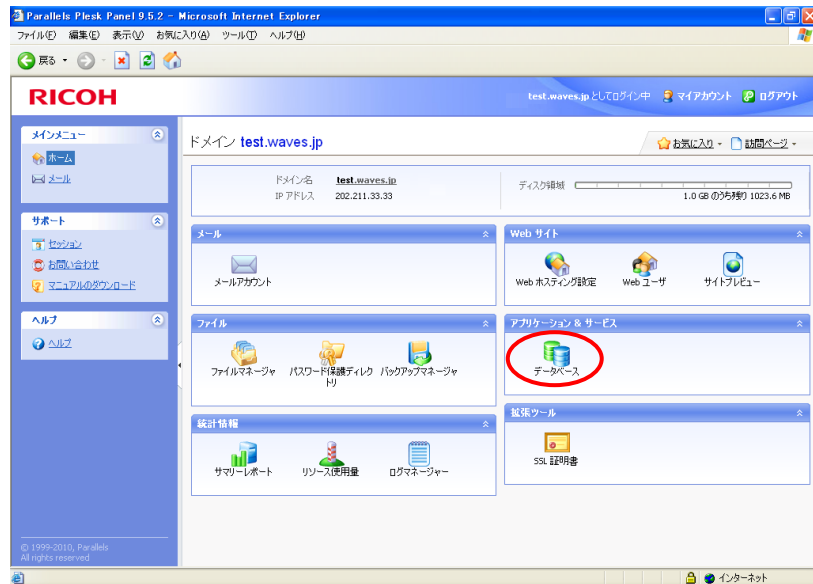
データベースユーザ名は 16 文字以内の半角英数字と”-” (ハイフン)、“_” (アンダーバー) を使用できます。記号または数字で始めることはできません。パスワードは 5~14 文字で指定してください。

6. サイトに新しいデータベースユーザが追加され、データベース機能が利用可能となります。

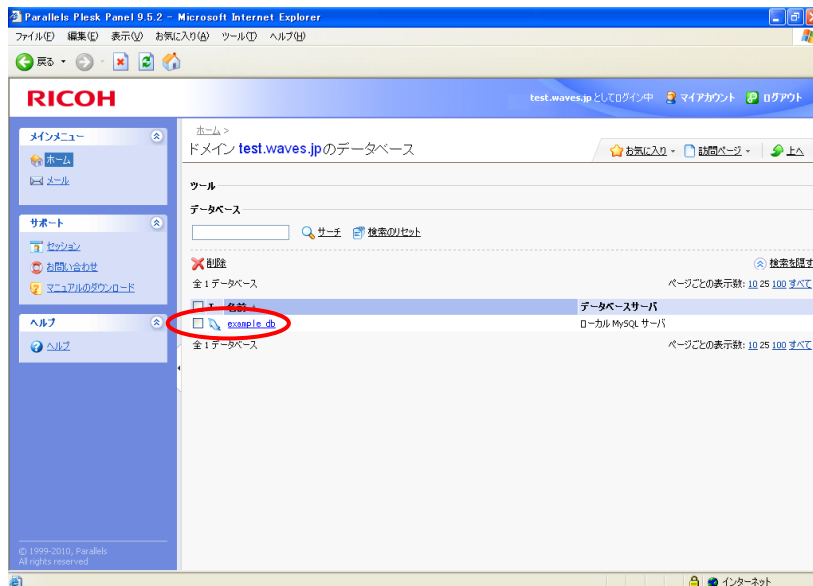
3.9.2 データベース管理ツールの起動

ホスティングサービスでは、MySQL、データベースをブラウザ上で管理できる GUI ツール phpMyAdmin をご提供しています。

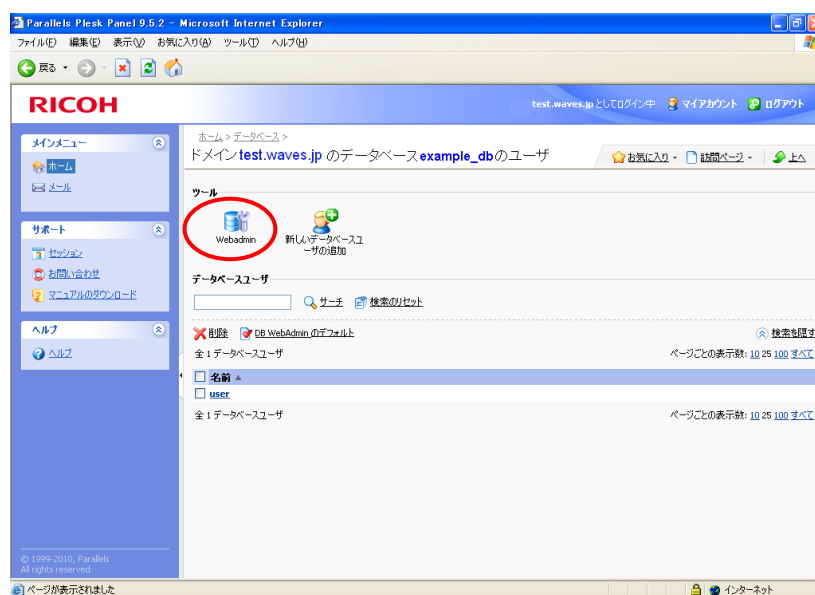
1. ナビゲーションペインの [ホーム] から、[アプリケーション&サービス] グループの [データベース] アイコンをクリックします。



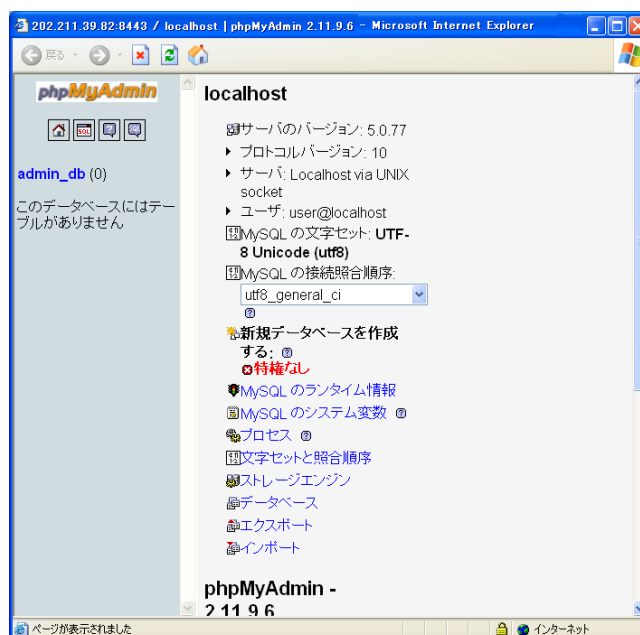
2. データベース一覧が表示されますので、作成済みのデータベース名をクリックします。



3. [ツール] グループの [WebAdmin] アイコンをクリックします。



4. 別ウィンドウで phpMyAdmin のトップページが表示されます。



PhpMyAdmin の操作方法についてはサポート外となります。

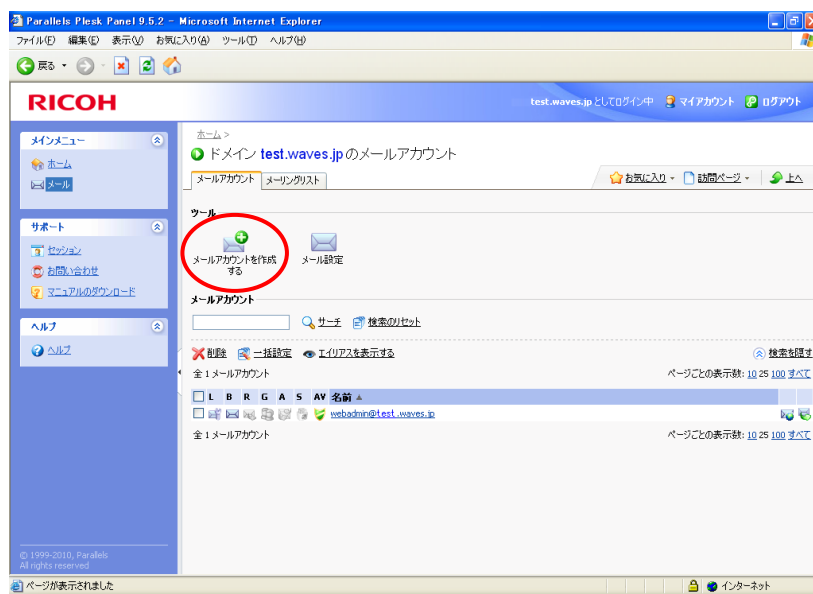
第4章 メール管理

ホスティングサービスでは1つのメールアドレスで様々なメールサービスを利用できます。

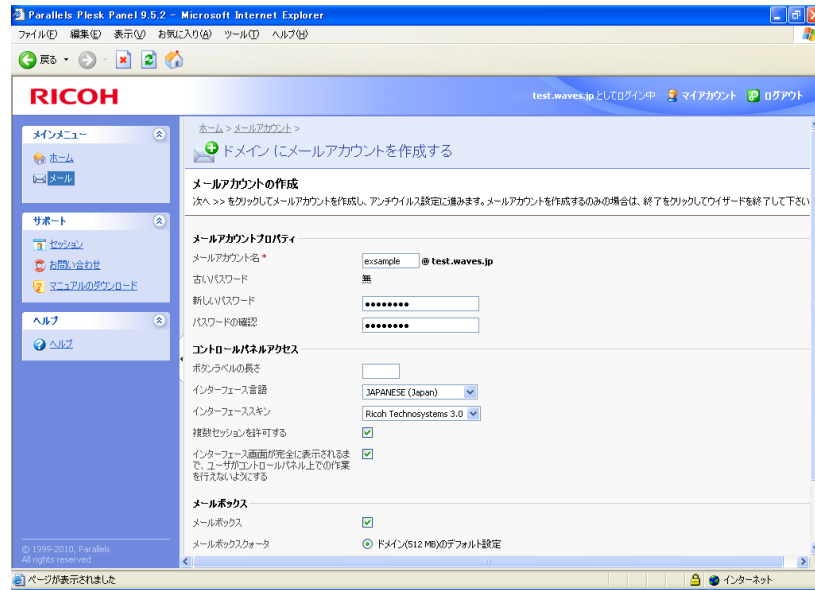
例えば、標準的なメールボックスとしてメールを受け取ったり、多数の宛先へ転送したり、送信者へ自動的に応答するようなメールアドレスを持つことができます。本章では、メールアドレスの様々なご利用方法について説明します。

4.1 メールアドレスを追加する

ここでは、メールアドレスを追加する方法について説明します。



1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、「メールアドレス」アイコンをクリックします。
(または、ナビゲーションペインの「メール」から同じ画面へ移行できます。)
2. 「メールアドレスを作成する」をクリックします。
3. メールアドレスの作成画面が表示されます。



(1) メールアカウントプロパティ

メールアカウント、およびメールの送受信に使用するパスワードを指定します。



アカウント名には半角英数小文字と"."(ピリオド) "-"(ハイフン) "_"(アンダーバー)を使用できます。



5文字以上の半角英数字および記号が設定可能ですが、8文字以上を推奨しております。メールアカウント名と同じ文字列や一部にアカウント名を含むパスワードは設定できません。また、辞書に明記されているような推測しやすい文字列はパスワードに使用できません。

<http://itkeeper.ricoh.co.jp/isp/faq/faq.html#mailPW>

(2) コントロールパネルアクセス

メールアカウント管理画面の表示方法を設定します。通常は変更する必要はありません。

(3) メールボックス

「Mailbox」のチェックボックスにチェックが入っていることを確認します。必要に応じて、このアカウントがサーバ上で使用できるメールボックスの最大容量をキロバイト単位で指定することもできます。



「Mailbox」のチェックを解除するとメールボックスを一時的に無効化できます。



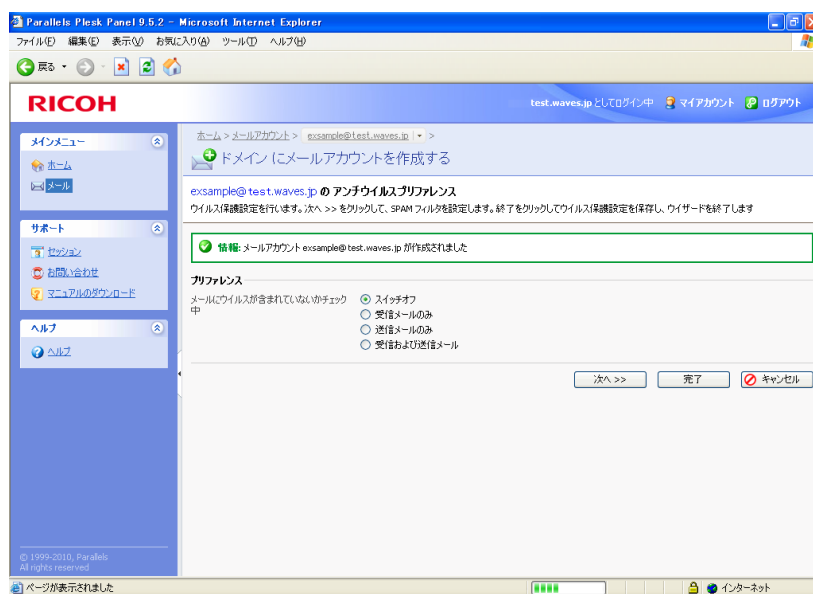
送信メールの容量制限は、ここで指定する値に関わらずメール1通あたり20Mバイトとなります。

(1)~(3)の各項目に入力します。

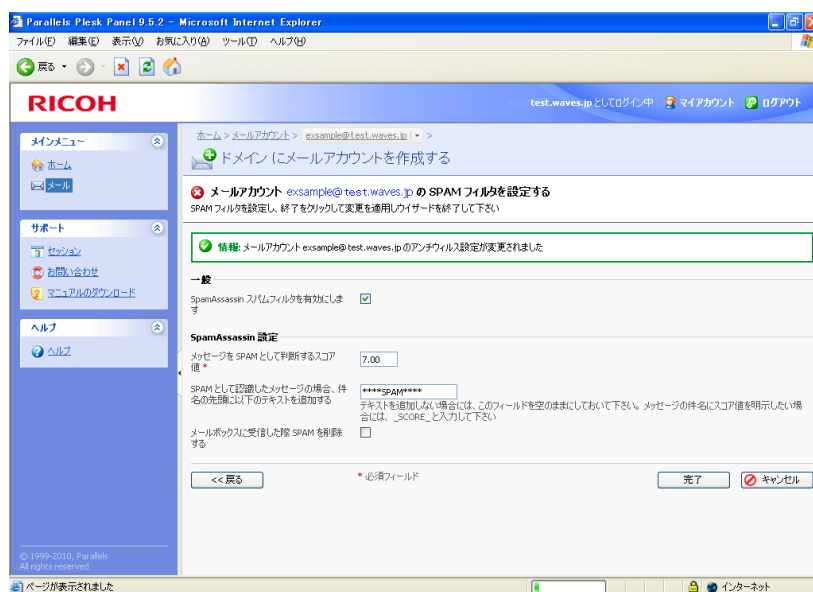
「完了」ボタンをクリックすると、ウイルス保護設定は行わずに新しいメールアカウントが作成され、設定が完了します。

「次へ」ボタンをクリックすると、新しいメールアカウントに対してウイルス保護設定を行います。

4. ウィルスチェックを行う対象を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



5. SPAM フィルタの設定を行います。詳しくは第4章 9.1 「迷惑フィルタの有効化」をご参照ください。



6. 「完了」ボタンをクリックすると、設定が完了します。

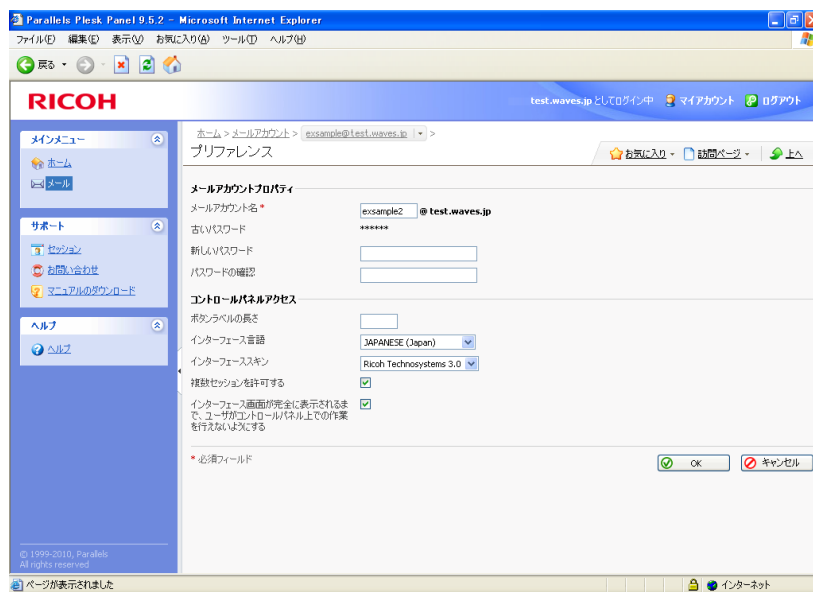
4.2 メールアドレスを変更・削除する

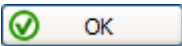
ここでは、不要になったメールアカウントを変更または削除する方法について説明します。

ナビゲーションペインの「ホーム」から、「メールアカウント」アイコンをクリックすると、作成済みのメールアカウント一覧が表示されます。


1. メールアドレス変更

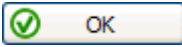
変更したいメールアカウントの名前をクリックします。[プリファレンス]をクリックし、メールアカウントプロパティのメールアカウント名に新しいメールアカウントを入力します。



変更を完了するには、 ボタンをクリックします。

2. メールアドレス削除

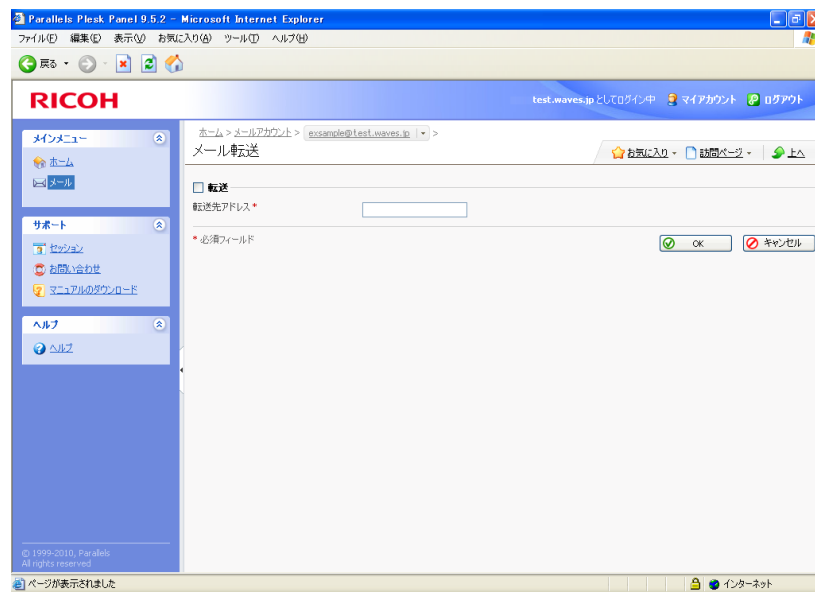
削除したいアカウント名の左側のチェックボックスを選択します。 **削除** をクリックすると確認画面が表示されます。

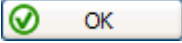
削除を実行するには、[削除の確認] チェックボックスにチェックを入れ  ボタンをクリックします。

4.3 メールを転送する

受信したメールを別のメールアドレスに転送する方法について説明します。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、「メールアカウント」アイコンをクリックすると、作成済みのメールアカウント一覧が表示されます。
2. 転送設定したいメールアカウントの名前をクリックして選択します。
3. 「転送」アイコンをクリックすると、転送設定画面が表示されます。



4. 「転送」チェックボックスにチェックを入れ、「転送先アドレス」欄に転送先のメールアドレスを入力します。
5. 転送設定を完了するには、 ボタンをクリックします。



複数のあて先に転送したい場合は第4章 6「複数のアカウントで同じメールを受信する」をご参照下さい

宛先となるメールアカウントのメールボックスにメールを残したくない場合は、以下を実行してメールボックスを無効化してください。



[メールアカウント]>メールボックスを無効化したいメールアカウントをクリック> [メールボックス] アイコンをクリックします。[メールボックス] のチェックを解除して [OK] をクリックします。

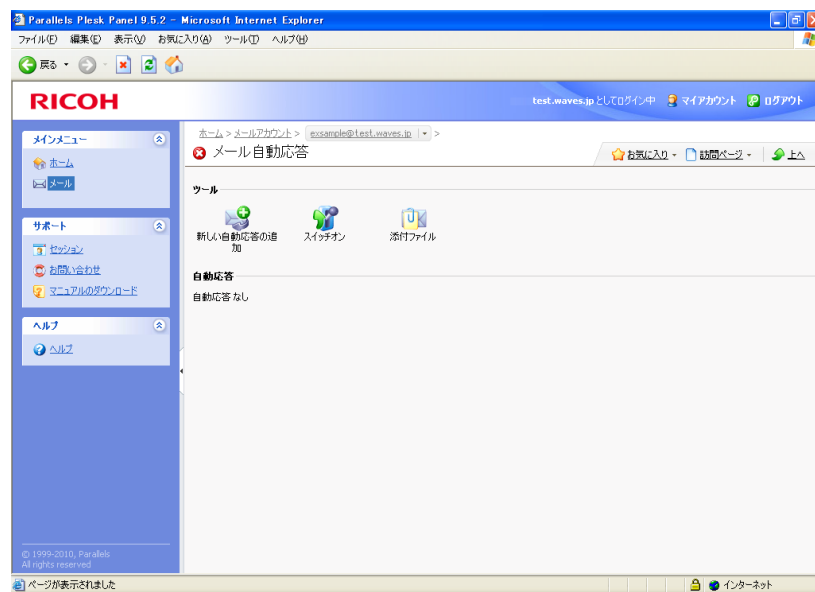



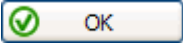
メールボックスを無効化すると、メール送信もできなくなりますのでご注意ください。

4.4 受信メールに自動的に返信する

自動応答機能を使用して、ユーザがメールを受信した際に、あらかじめ指定したメッセージを送信者に自動的に返信する方法について説明します。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、「メールアカウント」アイコンをクリックすると、作成済みのメールアカウント一覧が表示されます。
2. 自動応答を設定したいメールアカウントの名前をクリックして選択します。
3. [自動応答] アイコンをクリックすると、自動応答の設定画面が表示されます。



4. 自動応答にファイルを添付する予定がない場合は、手順 5 に進みます。自動応答にファイルを添付するには、以下を実行します。
 - (1) [ツール] グループの [添付ファイル] アイコンをクリックします。
 - (2) [参照] をクリックしてファイルを選択し、[ファイル送信] をクリックします。
 - (3) ファイルがサーバ内にアップロードされ、このファイルを別の複数の自動応答に追加できるようになります。
 - (4) 終了したら  上へ もしくは  ボタンをクリックし、次の手順に進みます。
5. [ツール] グループの [新しい自動応答の追加] アイコンをクリックします。

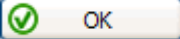
6. 自動応答を設定します。

- (1) [自動応答名] ボックスに、この自動応答の名前を入力します。例えば、休暇通知などです。
- (2) 不在の間、受信メールを別のメールアドレスに転送する場合、[受信メールの転送先アドレス] ボックスにメールアドレスを入力します。
- (3) 条件を指定せずに自動応答を送信する場合は、[状態] グループで [常に返信します] オプションを選択します。受信メッセージの件名または本文中に特定の語句を含むメールメッセージにのみ自動的に応答する場合は、適切なオプションを選択し、入力ボックスに語句の組み合わせを入力します。
- (4) デフォルトでは受信メールの件名が自動応答で送信するメッセージの件名に挿入されます。自動応答メールの件名を変更する場合は、[返信の件名] ボックスに任意の件名を入力します。





受信メールの件名を返信の件名に含めるには <request_subject> と記述します。

- (5) こちらから送信されたメッセージが自動応答であると相手側が認識できないため、相手側が自動応答に対して返答する場合があります。このため、[返信先アドレス] として自分のメールアドレスを指定する必要があります。
- (6) 自動応答メッセージの形式（平文テキストまたは HTML メール）と、文字のエンコード方式（UTF-8 を推奨）を指定します。
- (7) [返信テキスト] フィールドに自動応答する内容を入力します。
- (8) 同じメールアドレスへの 1 日あたりの自動応答の数を制限するには、[同一のアドレスへの返信上限回数] 入力ボックスに上限数（最大 100 回/日）を入力します。デフォルトでは 10 回/日の上限が設定されています。
- (9) メールサーバの負荷を減らすために、自動応答が記憶する固有のアドレスの数を制限できます。それには、[保存] ボックスに上限数を入力します。
- (10) 必要に応じて、ファイルを添付します。この場合、[新しい添付ファイルの追加] ボタンをクリックし、手順 4 にてサーバにアップロードしていたファイルの中から添付するファイルのチェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。添付ファイルを自動応答から削除するには、該当するチェックボックスを選択して [削除] をクリックします。

7.  ボタンをクリックして、自動応答設定を保存します。

8. [ツール] グループの [スイッチオン] アイコンをクリックします。

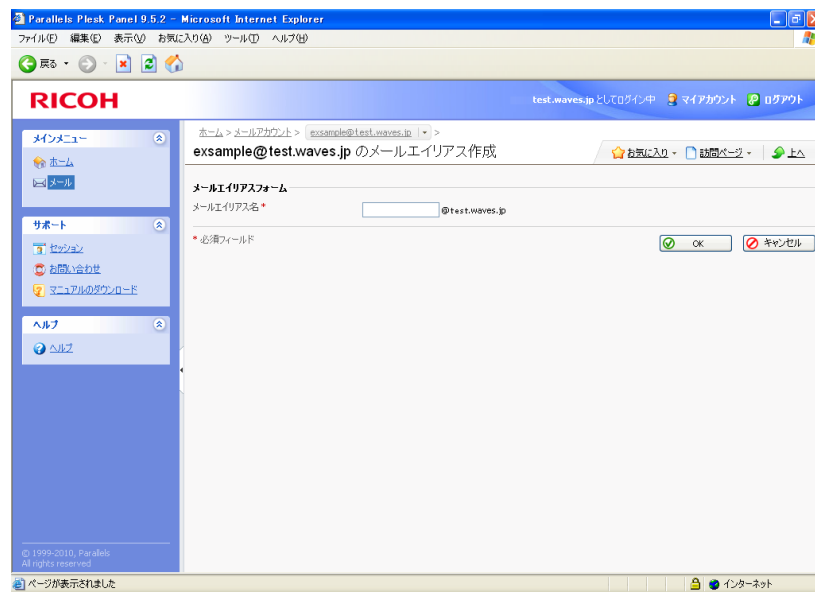


自動応答のリストには、自動応答が有効の場合は、無効の場合はが表示されます。

4.5 別のアドレスでメールを受信する

メールエイリアスを使用して、自分のメールアカウントの別名でメールを受信する方法について説明します。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、「メールアカウント」アイコンをクリックすると、作成済みのメールアカウント一覧が表示されます。
2. 別名を設定したいメールアカウントの名前をクリックして選択します。
3. [新しいメールエイリアスの追加] アイコンをクリックすると、メールエイリアス作成画面が表示されます。



4. エイリアスに追加する名前を入力し、[OK] をクリックします。

追加したメールアドレス（メールエイリアス）宛てのメッセージは、メールボックスに到着します。現在使用しているメールエイリアスのリストはドメインのメールアカウント一覧を表示するページで[エイリアスを表示する]をクリックすると表示されます。



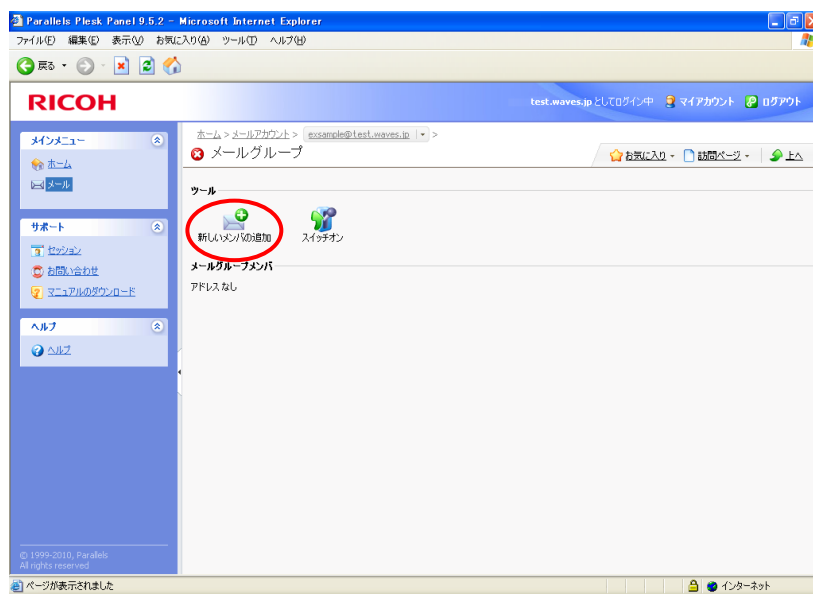
メールボックスからメールエイリアスを削除するには、以下を実行します。

[メールアカウント] アイコンから、エイリアスを削除したいメールアカウントをクリックします。削除するエイリアスにチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

4.6 複数のアカウントで同じメールを受信する

メールグループを使用して、特定のアカウントが受信したメールを他の複数のメールアカウントでも同時に受信する方法について説明します。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、「メールアカウント」アイコンをクリックすると、作成済みのメールアカウント一覧が表示されます
2. 受信メールの宛先となるメールアカウントの名前をクリックして選択します。
3. [メールグループ] アイコンをクリックすると、メールグループ設定画面が表示されます。



4. [新しいメンバーの追加] アイコンをクリックします。[メールアドレス] 入力フィールドに必要な外部メールアドレスを入力するか、チェックボックスでリストから 1 つまたは複数のメールアカウントを選択する、あるいは両方の作業を行います。

5.  ボタンをクリックして、メールグループ設定を保存します。

6. [ツール] グループの [スイッチオン] アイコンをクリックします。

宛先となるメールアカウントのメールボックスにメールを残したくない場合は、以下を実行してメールボックスを無効化してください。



[メールアカウント] >メールボックスを無効化したいメールアカウントをクリック> [メールボックス] アイコンをクリックします。[メールボックス] のチェックを解除して [OK] をクリックします。



メールボックスを無効化すると、メール送信もできなくなりますのでご注意ください。

4.7 メーリングリストを運用する

メーリングリストを管理/運用するためには Mailman を使用します。Mailman は GNU GPL（一般公衆利用許諾契約書）の下で配布されるフリーソフトです。

Mailman の仕様・詳細については公式サイト <http://mm.tkikuchi.net/> をご参照ください。



Mailman はフリーウェアとして提供されておりますので、ご利用方法のサポートは行っておりません。

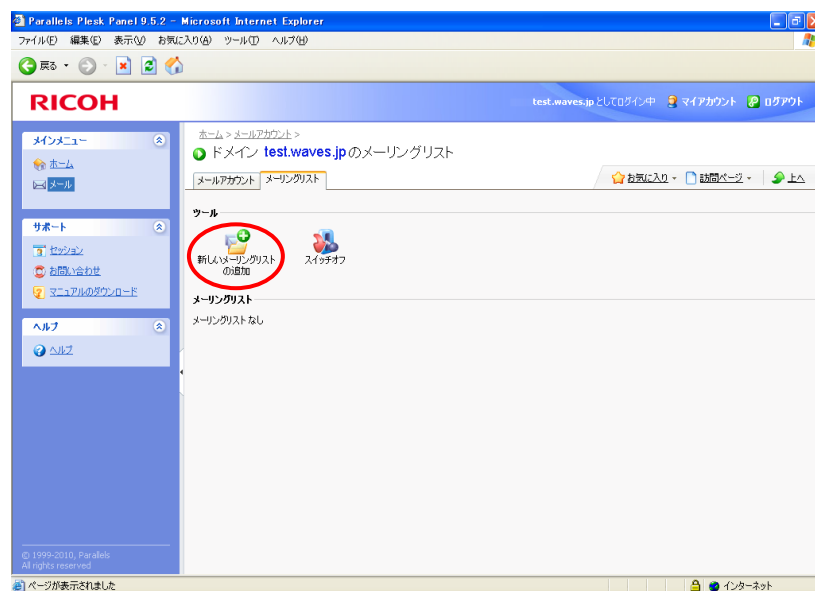


メーリングリストに登録できるアドレス数は最大 300 件までとなります。登録数が 300 件を越える場合は複数のリストに分割してください。

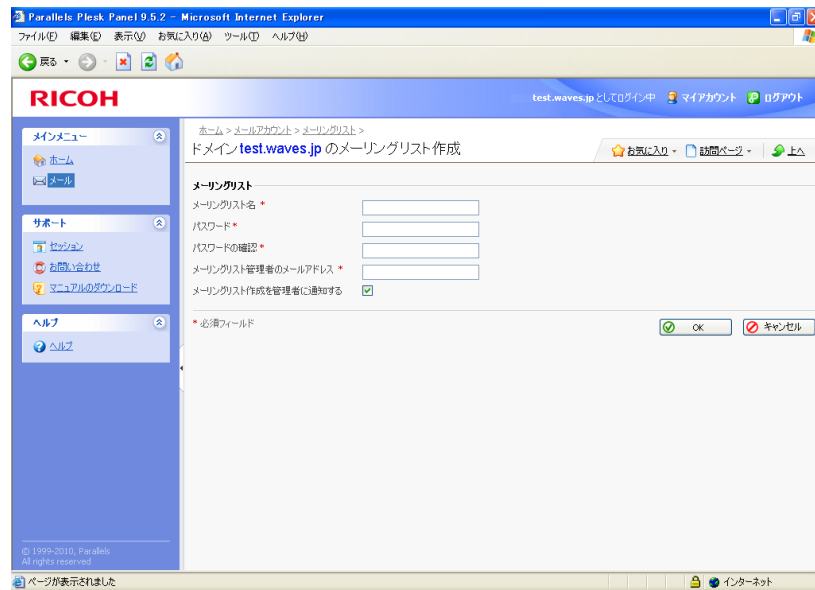
4.7.1 メーリングリストのセットアップ

メーリングリストをセットアップするには、以下の操作を実行します。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、[メールアカウント] アイコンをクリックします。
2. [メーリングリスト] タブをクリックします。



3. [新しいメーリングリストを追加] アイコンをクリックすると、メーリングリスト作成画面が表示されます。



4. メーリングリストの名前を入力します。



部署名、メーリングリストのトピック、その他のラテン記号テキストなどを指定できます。
英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

5. メーリングリストの管理に使用するパスワードを指定します。
6. メーリングリスト管理者のメールアドレスを指定します。
7. [メーリングリスト作成を管理者に通知する] チェックボックスは選択したまま（有効）にしておきます。




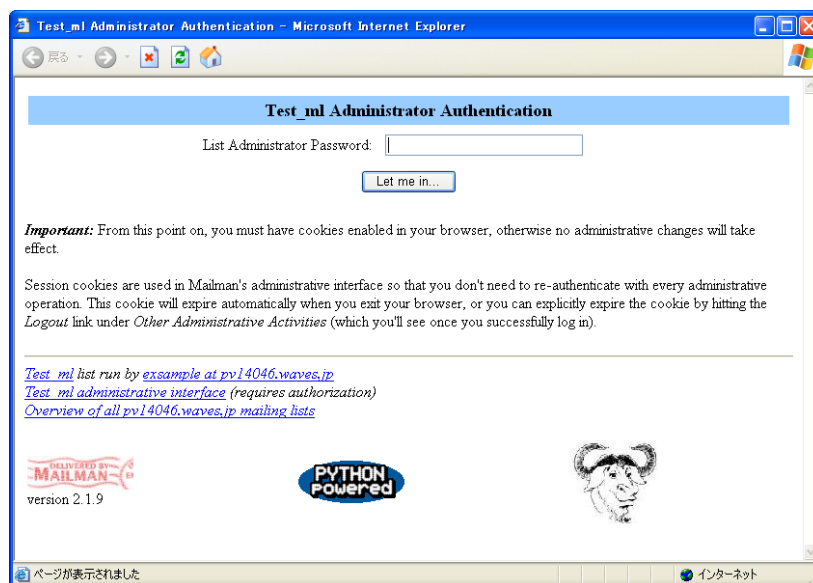
指定した管理者のメールアドレスでのメーリングリストの使用および維持に関する指示が表示されます。メッセージを記録用に保管しておいてください。

8. [OK] をクリックします。

4.7.2 メーリングリストの設定

メーリングリストはデフォルト設定で操作できますが、さらに専用の管理画面にアクセスすることで、モデレーションの有効化、投稿内容のフィルタリング、メッセージのアーカイブなどを実行できるように設定することができます。

1. [メール] > [メーリングリスト] タブ > [メーリングリスト] に進み、作成済みメーリングリストの一覧を表示します。
2. 該当するメーリングリストの右側の  アイコンをクリックすると別ウィンドウでログイン画面が表示されます。



メーリングリストの管理画面には、以下の方法でもアクセスできます。

Web ブラウザで `http://lists.<your-domain.com>/mailman/admin/<listname>` を開く。

<your-domain.com> : 使用しているドメイン名、<listname> : メーリングリスト名

3. リスト管理者のパスワードを入力し、[Let me in ...] をクリックします。



管理画面のデフォルトは英語表示ですが、[Language options] から日本語（Japanese）表示に変更することもできます。

メーリングリスト管理画面の[Language options]をクリックし、[Default language for this list]のプルダウンメニューを Japanese に切り替え、最下部の[Submit Your Changes]をクリックします。

Test_ml mailing list administration
Language options Section

Configuration Categories

- General Options
- Passwords
- Language options**
- Membership Management
- Non-digest options
- Digest options

Other Administrative Activities

- Privacy options
- Bounce processing
- Archiving Options
- Mail->News gateways
- Auto-responder
- Content filtering
- Topics

- Tend to pending moderator requests
- Go to the general list information page
- Edit the public HTML pages and text files
- Go to list archives
- Logout

Make your changes in the following section, then submit them using the *Submit Your Changes* button below.

Language options

Natural language (internationalization) options.

Description	Value
Default language for this list (Details for preferred language)	Japanese
	English (USA)
	Arabic
	<input type="checkbox"/> Catalan
	<input type="checkbox"/> Czech
	<input type="checkbox"/> Danish



メーリングリストの作成時には1回の投稿メールの最大容量は40KBですが、変更することもできます。

メーリングリスト管理画面の[全体的オプション/General Options]をクリックし、[投稿メール本文の最大サイズ (KB) /Maximum length in kilobytes (KB) of a message body]を変更し、最下部の[変更を送信する/Submit Your Changes]をクリックします。

The screenshot shows a web browser window titled "Test.ml メーリングリスト管理 全体的オプションの部". The page is divided into several sections:

- 設定分類 (Setting Categories):** Includes "全体的オプション" (General Options), "プライバシーオプション" (Privacy Options), "配送エラー処理" (Delivery Error Handling), "保存書庫オプション" (Archive Options), "メール<=>ニュース相互配送" (Mail <=> News Inter-distribution), "自動応答" (Auto-response), "添付ファイル除去" (Attachment Removal), and "読取" (Fetch).
- 他の管理項目 (Other Management Items):** Includes "未処理の申請を処理" (Process pending applications), "リスト総覧案内のページへ" (Go to list overview page), "公開 HTML ページとテキストファイルを編集する" (Edit public HTML pages and text files), "リストの保存書庫に移動する" (Move list to archive), and "ログアウト" (Logout).
- 全体的オプション (General Options):** A table with columns for "説明" (Description) and "値" (Value).

説明	値
基本的なリストの特性、説明情報、基本動作	
メーリングリストの全体的な性格 公表されるこのリストの名称 (大文字への変更だけ可能) (real_name の詳細)	Test.ml
その他の設定	
すべての投稿を緊急保留(します) (emergency の詳細)	<input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい
新入会員のデフォルト設定値 (new_member_options の詳細)	<input type="checkbox"/> 会員アドレスを隠します <input type="checkbox"/> 投稿に対する確認通知を送ります <input type="checkbox"/> 会員からの投稿は本人には送られません <input checked="" type="checkbox"/> リスト会員に内容が重複するメールを送りません(可能なら)
(管理コマンドファイル) 管理コマンドが含まれているメールの配送を保留しますか? (administrivia の詳細)	<input type="radio"/> いいえ <input checked="" type="radio"/> はい
投稿メール本文の最大サイズ(KB): 0を設定すると無制限 (max_message_size の編集)	40
メールの送信に使うホスト名(ドメイン名) (host_name の詳細)	test.waves.jp
このメーリングリストからのメールに RFC 2369 ヘッダ (List-*) を付けますか? <i>はい</i> にすることを推奨します (include_rfc2369_headers の詳細)	<input type="radio"/> いいえ <input checked="" type="radio"/> はい
投稿記事に List-Post: ヘッダを必要としますか? (include_list_post_header の詳細)	<input type="radio"/> いいえ <input checked="" type="radio"/> はい
この日数より古い保留メールは破棄します。自動破棄をしない場合は 0 にしてください。 (max_days_to_hold の編集)	0

At the bottom of the form, there is a button labeled "変更を送信する" (Submit Your Changes). Below the form, there are links for "Test.ml リスト管理人 webadmin@test.waves.jp", "Test.ml 管理用ページ (パスワードが必要です)", and "test.waves.jp の全メーリングリスト一覧".

4.7.3 ユーザの登録と登録解除

1. メーリングリストにユーザを登録するには、以下を実行します。
 - (1) [メール] > [メーリングリスト] タブ > [メーリングリスト] に進み、[新しいメンバの追加] をクリックします。
 - (2) 登録者のメールアドレスを入力して、[OK] をクリックします。
2. メーリングリストからユーザを登録解除するには、以下を実行します。
 - (3) [メール] > [メーリングリスト] タブ > [メーリングリスト] に進み、ユーザのメールアカウントの左側のチェックボックスを選択します。
 - (4) [削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

4.7.4 メーリングリストへの投稿

メーリングリストにニュースレターを発行したり、その他の情報を投稿するには、メーリングリストのメールアドレスへメールで送信します。登録された全てのユーザがメールを受信します。

4.7.5 メーリングリストの削除

サイトからメーリングリストを削除するには、以下を実行します

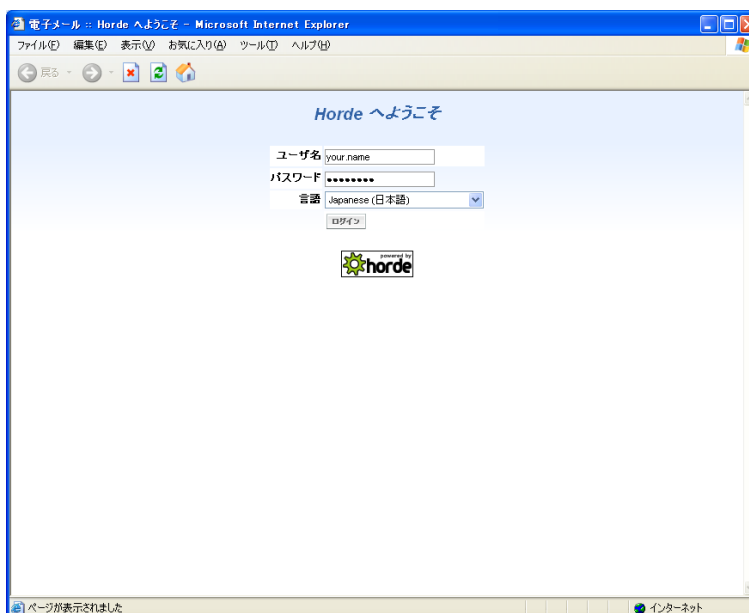
1. [メール] > [メーリングリスト] タブに進みます。
2. 削除するメーリングリストに対応するチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

4.8 外出先でメールを確認する

ホスティングサービスでは、オープンソースの Web メールソフトである Horde をご利用いただけます。自宅やオフィスのコンピュータから離れている場合でも、ブラウザ上で自分のメールを読み出し、新しいメッセージを作成することができます。

Web メールを利用してメールボックスにアクセスするには、以下の手順を実行します。

1. Web ブラウザを開いて以下の URL を入力し、ENTER を押します。
http://webmail.<お客様ドメイン名>
2. Web メールログイン画面が開きます。メールボックスを作成する際に指定したユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。



3.  をクリックすると、Webメールのホーム画面が表示されます。



ご利用にあたってのご注意

- Horde はフリーウェアとして提供されておりますので、ご利用方法のサポートは行っておりません。
- Horde でのアクセス中は PC のメールソフトを起動しないようにしてください。
- Horde 上で保存・振り分けされたメールもディスク容量を消費しますので、不要なメールデータは定期的に削除してください。また、ごみ箱を空にしないと削除になりません。
- ログアウトせずに閉じるボタンで閉じた場合ログイン情報が残りますので、必ずログアウトしてください。
- ブラックリスト・ホワイトリストは迷惑メールフィルタ機能とは別に動作します。

4.9 迷惑メールフィルタを利用する

ホスティングサービスでは、SpamAssassin を使用した迷惑メールフィルタ機能を利用することができます。SpamAssassin はテキスト解析技術やブラックリストに基づく迷惑メールフィルタであり、ドメイン管理者はメールアカウント単位でブラックリスト・ホワイトリストの設定や SPAM 判定時の処理方法を選択できます。

SpamAssassin の仕様・詳細については、公式サイト <http://spamassassin.apache.org/>（英語）をご参照ください。



迷惑メールフィルタはその特質上、誤検出（通常のメールを誤って迷惑メールと判定すること）や見逃し（迷惑メールを通常のメールと判定して通過させること）を完全に防ぐことはできません。予めご了承ください。

4.9.1 迷惑メールフィルタの有効化

メールアカウントの作成時には SPAM フィルタは無効になっています。有効にするには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、[メールアカウント] アイコンをクリックします。
2. 迷惑メールフィルタを設定したいメールアカウントの名前をクリックして選択します。
3. [ツール] グループの [SPAM フィルタ] アイコンをクリックします。
4. SPAM フィルタの管理画面が表示されますので、必要に応じて以下の設定を行います。



(1) SpamAssassin スпамフィルタを有効にします

(2) メッセージを SPAM として判断するスコア値

この設定は SPAM フィルタの感度を調整します。SpamAssassin は、各メッセージのコンテンツおよび件名に対して複数の異なるテストを実行します。その結果、各メッセージに複数のポイントが記録されます。ポイントが高くなるほど、メッセージが SPAM である可能性が高くなります。例えば、件名および本文にテキスト文字列「BUY VIAGRA AT LOW PRICE!!!」を含むメッセージのスコアは 8.3 ポイントになります。

デフォルトでは、スコアが 7 ポイント以上のメッセージが全て SPAM と分類されるようにフィルタ感度が設定されます。



現在の設定で多くの SPAM メッセージを受け取る場合、スコア値を 6 などに下げてください。反対に、正当なメールが SPAM であると誤検知される場合は、スコア値を高くしてみてください。

(3) SPAM として認識したメッセージの場合、件名の先頭に以下のテキストを追加する **(推奨)**

迷惑メールと認識されたメッセージを SPAM フィルタでマークする方法を指定します。デフォルトでは「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダがメッセージソースに付加され、また SPAM フィルタにより件名の先頭に特定のテキスト文字列「***SPAM***」が追加されます。

希望の記号や文字の組み合わせをメッセージの件名に追加する場合は、このボックスに入力してください。SPAM フィルタにメッセージの件名を変更させたくない場合は、このボックスを空白にしてください。



ここで指定した文字列をキーにして、メールソフト側で迷惑メールを自動的に振り分けることができます。詳細は [4.9.6 メールソフトでの自動振り分け設定](#) をご参照ください。



件名にメッセージのスコアを含めたい場合は、このボックスに `_SCORE_` と入力してください。

(4) メールボックスに受信した際 SPAM を削除する **(非推奨)**

このオプションを有効にすると、SPAM と認識された全ての受信メッセージは自動的に削除されます。

注意！ このオプションを有効にすると、重要なメールが誤って迷惑メールと判定され削除される可能性があります。削除されたメールを復活することはできませんので、設定には十分にご注意ください。

5. 最後に [有効] アイコンをクリックすることで、メールアカウントに SPAM フィルタが適用されます。

4.9.2 ブラックリスト・ホワイトリストの設定


特定のドメインや送信者からのメールを受信したくない場合は、SPAM フィルタのブラックリストにそれぞれの項目を追加します。

特定の送信者からのメールを確実に受信するには、SPAM フィルタのホワイトリストにそのメールアドレスまたは完全なドメイン名を追加します

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、[メールアカウント] アイコンをクリックします。
2. ブラックリスト・ホワイトリストを設定したいメールアカウントの名前をクリックして選択します。
3. [ツール] グループの [SPAM フィルタ] アイコンをクリックします。
4. 必要に応じて [ブラックリスト] タブ、または [ホワイトリスト] タブを開きます。
5. ブラックリスト・ホワイトリストに項目を追加するには、[アドレスを追加する] アイコンをクリックします。
6. 登録したいアドレスのリスト (テキストファイル) がある場合は [ファイルより取得] オプションを選択し、[参照] でファイルを指定して一括登録します。リストはアドレスごとに改行するか、コンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切ってください。



アドレスの入力にはワイルドカードが使用できます。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します。例えば「*@spammers.net」を指定すると、spammers.net というドメインから送信された全てのメールをブロックできます。




7. アドレスを入力する場合は [リストより取得] オプションを選択し、[メールアドレス] ボックスにメールアドレスを入力します。複数アドレスの入力方法は上記 6 をご参照ください。
8. 追加したエントリを保存するには、[OK] をクリックして追加を確認して、もう一度 [OK] をクリックしてください。
9. ブラックリスト・ホワイトリストからエントリを削除するには、それぞれのタブからエントリを選択し  **削除** をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。
10. SPAM フィルタの設定が終了したら、[プリファレンス] タブで [SpamAssasin スпамフィルタを有効にします] にチェックを入れ [OK] をクリックすることで、メールアカウントに SPAM フィルタが適用されます。


4.9.3 迷惑メール検出の精度の改善

メールボックス内に保存されたメールメッセージで SPAM フィルタをトレーニングすることで、迷惑メール検出精度の向上が期待できます。

SPAM 検出の精度を改善するには、以下の手順を実行します。




1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、「メールアカウント」アイコンをクリックすると、作成済みのメールアカウント一覧が表示されます。
2. トレーニングしたいメールアカウントの名前をクリックして選択します。
3. [ツール] グループの [SPAM フィルタ] アイコンをクリックします。
4. [トレーニング] タブを開きます。
5. メールボックス内のすべてのメールメッセージが画面に表示され、各メッセージの左の列にアイコンが表示されます。このアイコンから、メッセージがどのように認識されているかを確認できます。

-  このメッセージは SPAM と認識されています。
-  このメッセージは非 SPAM と認識されています。
-  このメッセージは認識できません。

トレーニングを実施済みの場合は、右側の列に  アイコンが表示されます。



サーバのメールボックス内に保存されたメールメッセージでのみ、SPAM フィルタのトレーニングが可能です。

6. SPAM フィルタをトレーニングします。
 - (1) メッセージに SPAM とマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「 SPAM です」をクリックします。
 - (2) メッセージに非 SPAM とマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「 SPAM ではありません」をクリックします。
 - (3) SPAM フィルタのデータベースから特定のメッセージに関する情報を削除するには、対応するチェックボックスを選択し、「 取り消します」をクリックします。
7. トレーニングが終了したら、メールソフトまたは Web メールを使用して、メールボックスから SPAM メールを削除できます。

4.9.4 迷惑メールフィルタのデータベースの消去

間違って SPAM フィルタに大量の SPAM メールを非 SPAM と学習させた場合、またはその逆の場合、SPAM フィルタの学習結果が間違ったものになる可能性があります。SPAM フィルタのデータベースを消去するには、以下の操作を実行します。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、「メールアカウント」アイコンをクリックすると、作成済みのメールアカウント一覧が表示されます。
2. データベースを消去したいメールアカウントの名前をクリックして選択します。
3. [SPAM フィルタ] アイコンをクリックして、[トレーニング] タブを開きます。
4. [SPAM フィルタデータベースをクリアします] アイコンをクリックします。

4.9.5 迷惑メールフィルタの無効化

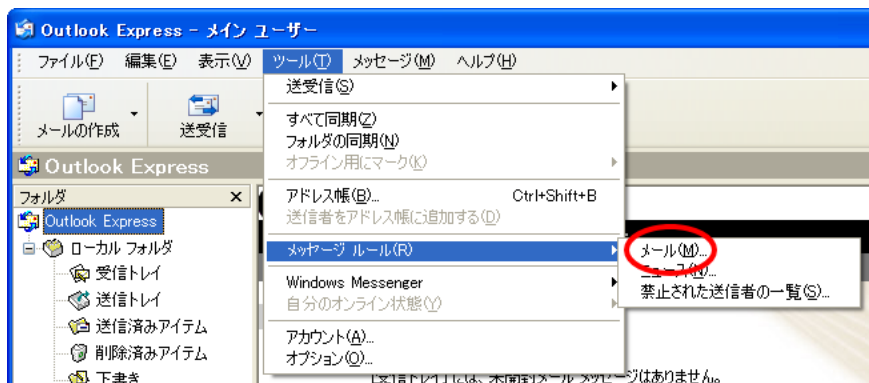
メールボックスの SPAM フィルタを無効にするには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、「メールアカウント」アイコンをクリックすると、作成済みのメールアカウント一覧が表示されます。
2. SPAM フィルタを無効にしたいメールアカウントの名前をクリックして選択します。
3. [SPAM フィルタ] アイコンをクリックし、[プリファレンス] タブを開きます。
4. [SpamAssasin スпамフィルタを有効にします] のチェックをはずし、「OK」ボタンをクリックします。

4.9.6 メールソフトでの自動振り分け設定

SpamAssassin により迷惑メールと判定されたメールを、Outlook Express6 で任意のフォルダに自動的に振り分ける方法について説明します。

1. Outlook Express を起動し、メニューから「ツール」→「メッセージルール」→「メール」の順にクリックします。

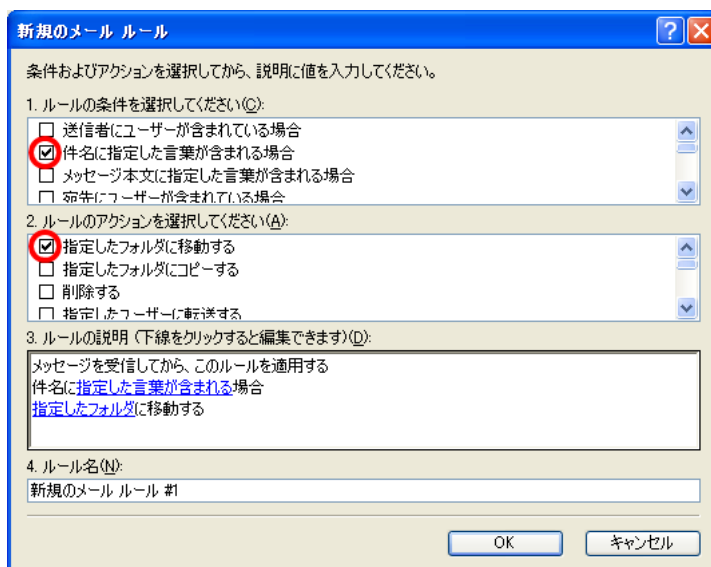


すでに何らかのルールが作成されている場合はメッセージルールの一覧画面が表示されますので、**新規作成**をクリックします。

2. 新規のメールルールの設定画面が表示されますので、以下の 2ヶ所にチェックを入れます。

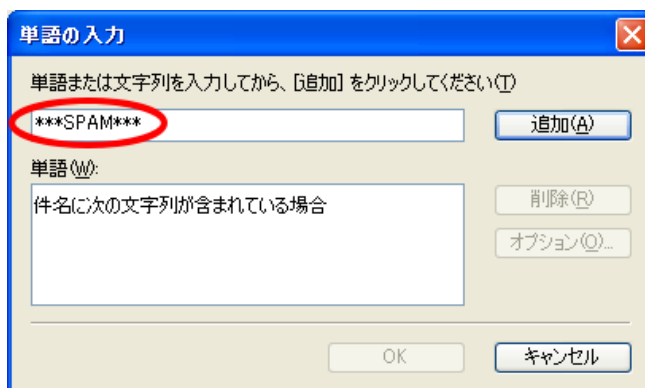
「1. ルールの条件を選択してください」 → 「件名に指定した言葉が含まれる場合」

「2. ルールのアクションを選択してください」 → 「指定したフォルダに移動する」



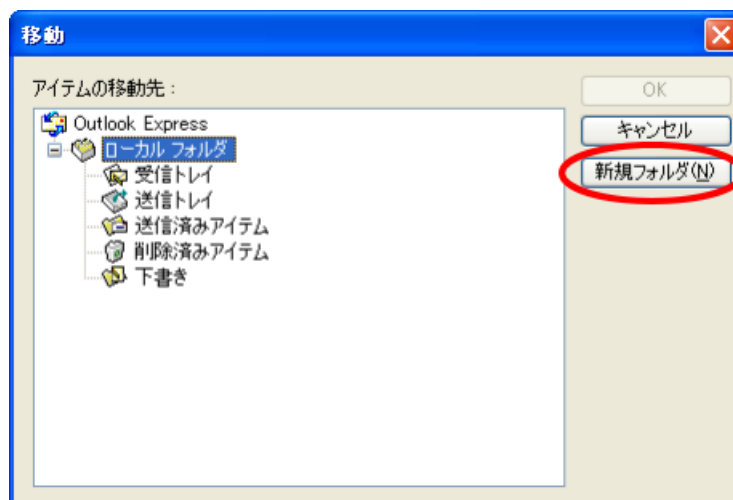
3. 「3. ルールの説明」欄に表示された説明から「指定した言葉が含まれる」という部分をクリックします。

4. 単語の入力画面が表示されますので、4.9.1 迷惑メールフィルタの有効化の手順で指定した「件名に追加する文字列」をと入力して **追加**、**OK** の順にクリックします。

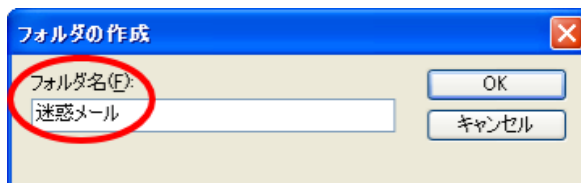


上の例ではデフォルトの文字列「***SPAM***」の場合の設定方法を示しています。

5. 新規のメールルールの設定画面に戻りますので、「3. ルールの説明」欄に表示された説明から「[指定したフォルダ](#)」という部分をクリックします。
6. アイテムの移動先の設定画面が表示されますので、**新規フォルダ** ボタンをクリックします。

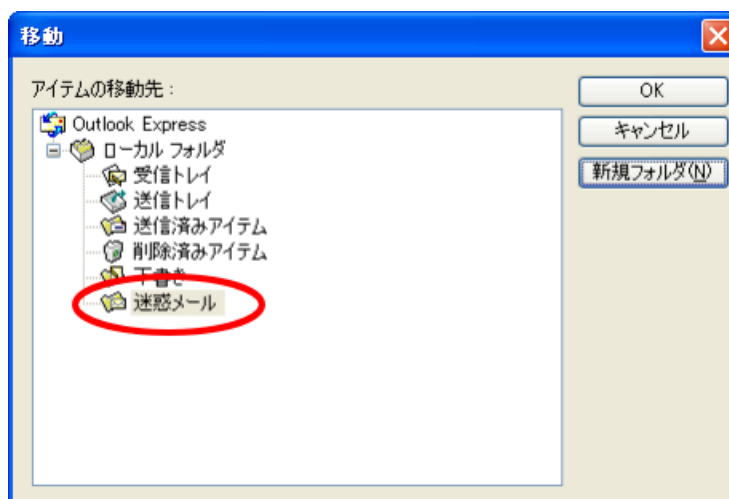


7. フォルダ名の入力画面が表示されますので、任意のフォルダ名を入力して **OK** をクリックします。ここでは仮に「迷惑メール」としておきます。

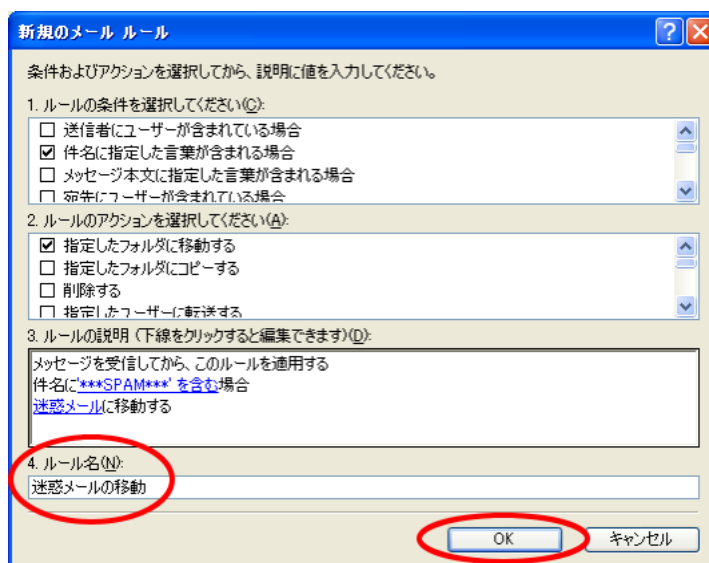


後からフォルダ名を変更した場合はメッセージルールも合わせて修正する必要があります。手順 5 からフォルダの指定を再度実行してください。

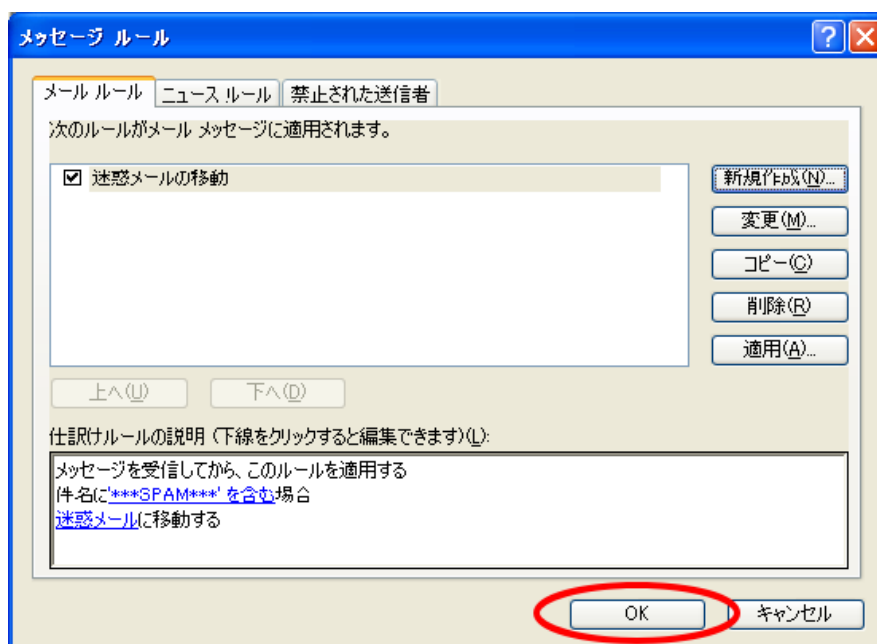
8. アイテムの移動先選択画面が表示されますので、先ほど作成した「迷惑メール」フォルダが追加されたことを確認して **OK** をクリックします。



9. 新規のメールルールの設定画面に戻りますので、「4. ルール名」欄に任意の名前を入力して **OK** をクリックします。ここでは仮に「迷惑メールの移動」としておきます。



10. メッセージルールの一覧画面が表示されますので、**OK**をクリックして OutlookExpress 6 に戻ります。



以上で、メールソフトでの自動振り分け設定は完了です。件名に「***SPAM***」を含むメールは全て、自動的に「迷惑メール」フォルダに移動されます。



メッセージルールは上側に表示されたルールから順番に適用されます。迷惑メール振り分けルールよりも優先されるルールが存在する場合、意図したとおりに振り分けられません。メッセージルールの一覧画面で迷惑メール振り分けルールを選択して **上へ** ボタンをクリックし優先度を上げてください。

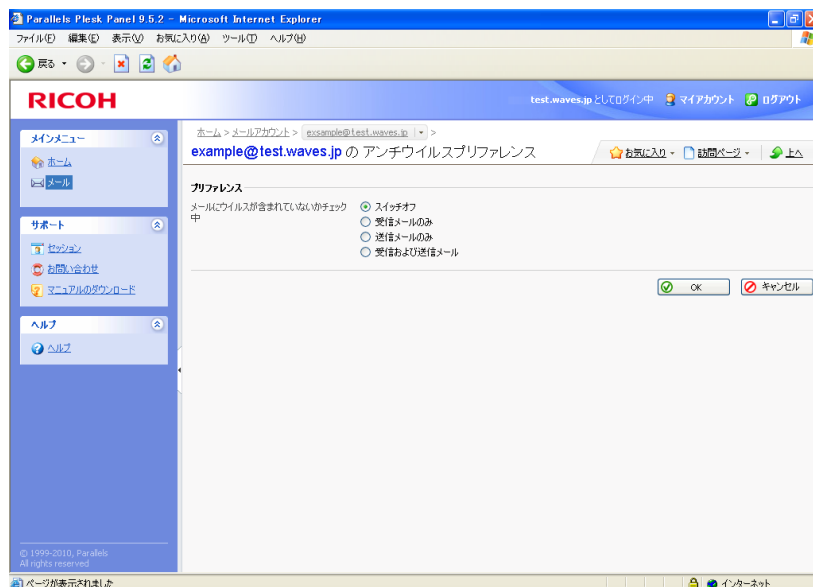
4.10 ウイルスチェックを利用する

ホスティングサービスでは、Parallels Premium Antivirus エンジンを使用したウイルスチェック機能を標準で提供しています。メールアドレスの作成時にはウイルスチェックは無効になっています。有効にした場合、お客様が送受信されたメールにウイルスを発見した際は、該当メールの宛先に検知メールを送信します。

ウイルスチェックの有効・無効を変更するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、「メールアカウント」アイコンをクリックします。表示されたメールアカウント一覧からウイルスチェックを設定したいメールアカウントをクリックして選択します。
2. [ツール] グループの [アンチウイルス] アイコンをクリックすると、ウイルスチェック設定画面が表示されます。

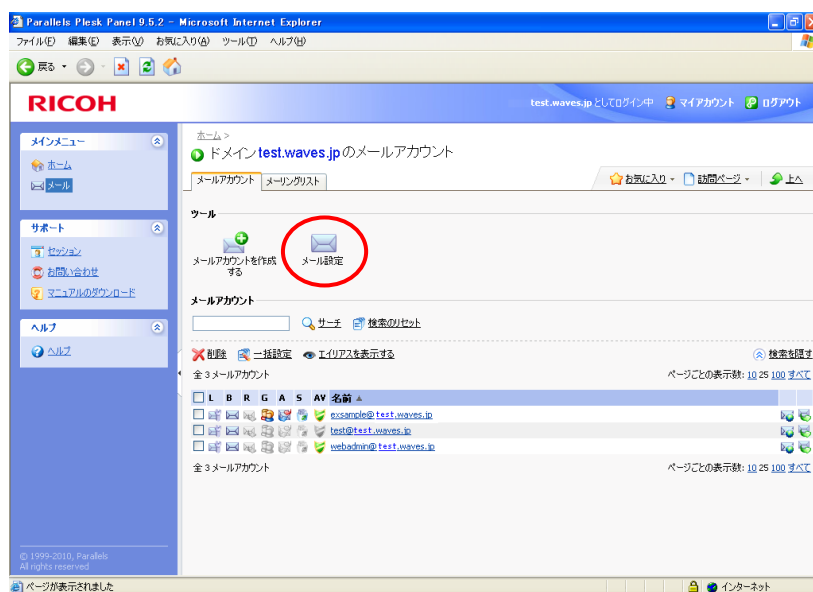
ウイルス保護を行うメールにチェックを入れ、 ボタンをクリックして設定を保存します。



4.11 メールサーバ機能を停止する

ホスティングサービスでは、メールサーバ機能を利用されない場合、一時的にメールサービスを無効にすることができます。メールサーバ機能の有効・無効を変更するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、「メールアカウント」アイコンをクリックします。
2. [ツール] グループの [メール設定] アイコンをクリックします。



3. メールサーバ機能が直ちに停止します。



メールサーバ機能を停止すると一切のメール送受信機能が停止します。Web メールもご利用いただけません。ホスティングサーバ宛に送信されたメールは、宛先不明 (User unknown) となりエラーメールが送信者に返信されます。取り扱いには十分ご注意ください。



MX レコードを変更して外部メールサーバにてメールを運用される場合はホスティングサービスのメールサーバ機能を無効化してください。



メールサーバ機能を無効化しても、設定済みのメールアカウント等は削除されません。

第 5 章 その他の機能

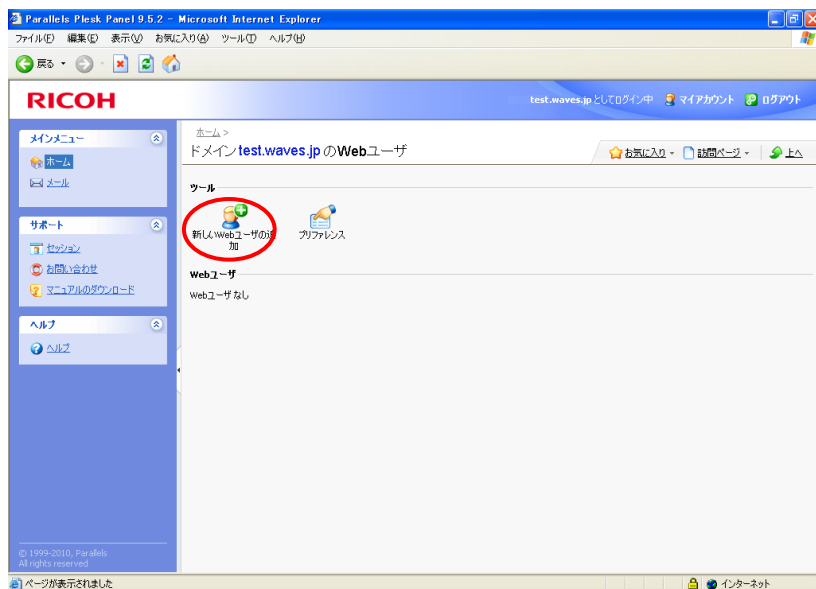
5.1 ユーザに Web 用領域を提供する

ユーザに Web 用の領域を提供する場合には、ユーザが FTP で利用できるように Web ユーザを登録します。

5.1.1 Web ユーザの登録方法

ここでは、Web ユーザを登録する方法について説明します。

1. ナビゲーションペインの一般グループから [ホーム] をクリックします。
2. [Web サイト] グループの [Web ユーザ] アイコンをクリックします。
3. Web ユーザ画面が表示されますので、[新しい Web ユーザの追加] をクリックします。

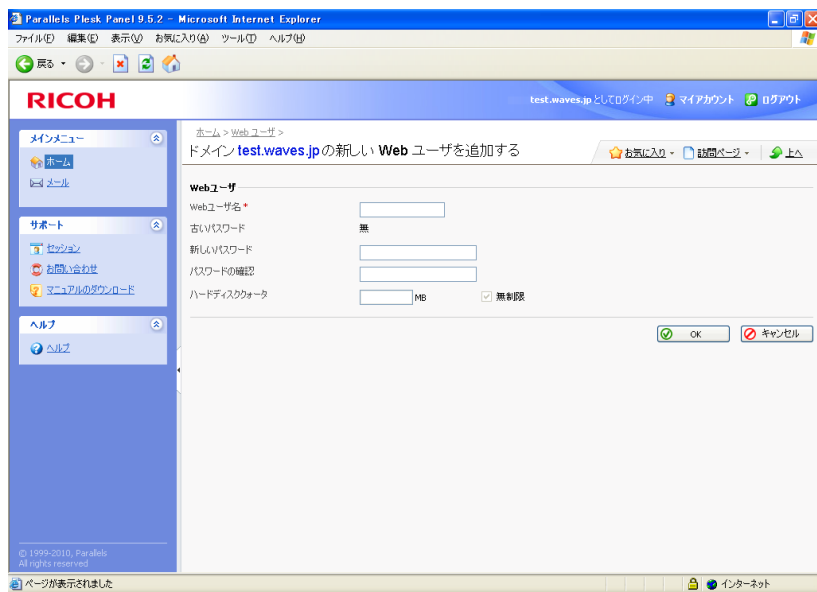


Web ユーザ名には半角英数小文字と"."(ピリオド) "-"(ハイフン) "_"(アンダーバー)を使用できます。

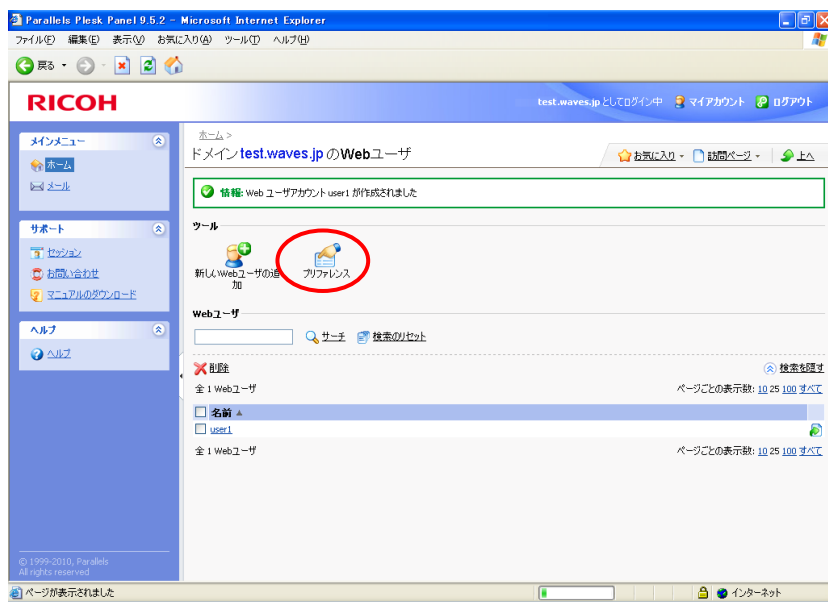


パスワードは半角英数で 5～14 文字で指定してください。
Web ユーザ名と同じパスワードは設定できません。また、一部に Web ユーザ名を含むパスワードも設定できません。

4. Web ユーザ名、パスワードおよび提供する容量を指定します。



5. Web ユーザにスクリプトの使用を許可する場合は、プリファレンスで「web ユーザにスクリプトの使用を許可する」のチェックボックスにチェックを入れます。



ユーザは、FTP ソフトを用いてコンテンツをアップロードするため
管理者は、Web ユーザ名・パスワードをユーザへ通知してください。

5.2 サイトの利用状況を確認する

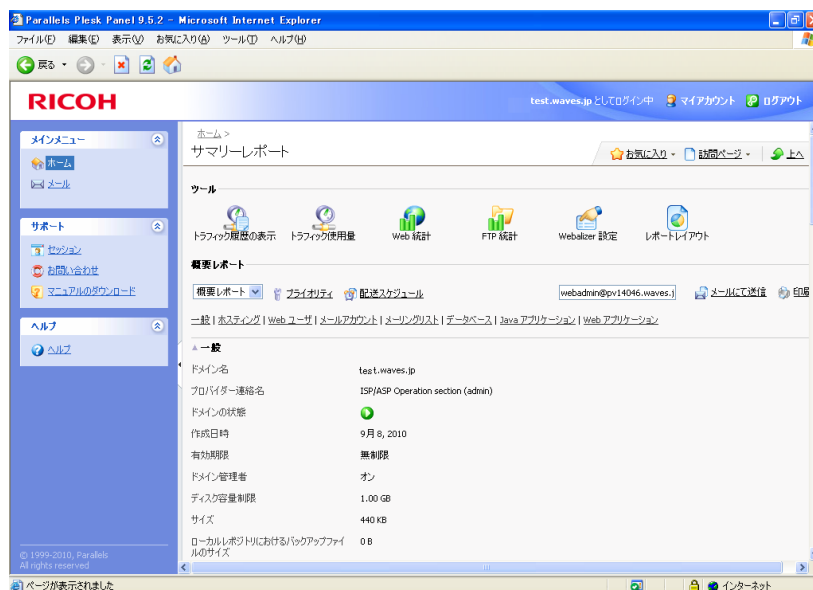
ここでは、ドメイン管理画面上でサイトの利用状況を確認する方法について説明します。




お客様ホームページへのアクセス状況を知りたい場合は、**第3章 3.5「アクセス状況を確認する」**をご覧ください。

5.2.1 レポートの表示

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、[統計情報]グループの「サマリーレポート」アイコンをクリックします。



2. [ツール] グループの各アイコンをクリックすると、詳細画面が表示されます。
3. プルダウンメニューから [概要レポート] / [フルレポート] を切り替えることができます。
4. ボックスにメールアドレスを入力して  **メールにて送信** をクリックすると、表示中のレポートを任意のメールアドレスに送信することができます。

5.2.2 ツール



トラフィック履歴の表示 お客様ドメインのトラフィックの履歴を表示します。



トラフィック使用量 お客様ドメインのトラフィックの当月使用状況を表示します。



Web 統計 Webalizer による統計レポートを別ウィンドウで表示します。



FTP 統計 FTP 利用状況レポートを別ウィンドウで表示します。





Webalizer 設定 Webalizer による統計レポートの表示形式を編集します。



レポートレイアウト サイトの利用状況に表示される項目を編集します。

5.2.3 レポート表示項目（抜粋）

1. 一般

項目名	説明
ドメイン名	お客様ドメイン名
プロバイダー連絡名	ご契約会社名
ドメインの状態	正常時は  、容量超過などが原因でサービスが停止している場合は  が表示されます
作成日時	ホスティングサービス設定日
ディスク容量制限	ホームページ領域とメール領域を合計したご契約容量
サイズ	ご利用中のディスク容量
トラフィック	お客様サイトにおけるデータ転送量の合計
ローカルレポジトリにおけるバックアップファイルのサイズ	サーバ上に保存されているバックアップファイルのディスク容量



2. ホスティング

項目名	説明
IP アドレス	ホスティングサーバの IP アドレス
FTP ログイン	FTP アカウント名
システムアクセス	ログインディレクトリ (アクセスが無効の場合は /bin/false と表示されます)
ハードディスククォータ	ホームページ領域の最大サイズ
httpdocs の使用しているディスク容量	ご利用中のホームページ容量
トラフィック	お客様ドメインのホームページ転送量
(各種機能)	ご利用になれる機能は「オン」、ご利用できない機能は「Off」と表示されます

3. Web ユーザ

項目名	説明
トータル	作成済みの Web ユーザアカウント数
トータルサイズ	ご利用中の Web 容量
(各種機能)	有効なアカウント数

4. メールアカウント



項目名	説明
メールサービス	正常時は  、サービスが停止している場合は  が表示されます
トータル	作成済みのメールアカウント数
コントロールパネルアクセス	メールアカウント管理画面にアクセスできるアカウント数
メールボックス	有効なメールアカウント数
転送	設定済みの転送設定の件数
メールグループ	設定済みのメールグループ数

自動応答	設定済みの自動応答の件数
トータルサイズ	ご利用中のメール容量
トラフィック	お客様ドメインのメール転送量



メールアカウントの詳細は、ホーム>サマリーレポートのページ上部のプルダウン [概要レポート] / [フルレポート] から、[フルレポート] を選択してご参照下さい。

5. メーリングリスト

項目名	説明
メーリングリストサービス	正常時は  、サービスが停止している場合は  が表示されます
トータル	作成済みのメーリングリスト数
トータルサイズ	メーリングリストの使用しているディスク容量

6. データベース

この機能はご利用いただけません。

7. Web アプリケーション

この機能はご利用いただけません。

8. サイトアプリケーション

この機能はご利用いただけません。

5.3 サイトのバックアップと復元

ここでは、サイトのバックアップと復元を行う方法について説明します。バックアップしたデータはサーバ上に保存され、必要に応じてお使いのコンピュータにダウンロードすることもできます。




機器障害が発生した際はサーバ設定の初期状態まで復旧を行います。お客様が作成・登録されたアカウント設定、ウェブコンテンツ、およびメールデータの保証は行ないません。お客様のデータを保護するため、**定期的にバックアップを行って頂きますようお願いいたします。**

5.3.1 バックアップ

サイトのバックアップを作成するには以下の操作を実行します。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、[ファイル] グループの「バックアップマネージャ」アイコンをクリックします。
2. バックアップマネージャ画面が表示されますので、[ツール] グループの「バックアップ」アイコンをクリックします。
3. [バックアップ名にプリフィックスを追加する] にバックアップファイル名を指定し、バックアップファイルの説明（コメント）を入力します。デフォルトのままでも問題ありません。
4. 多重ボリュームのバックアップを作成するには、[マルチボリュームバックアップを作成する] チェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
5. [バックアップの保存先]
6. [バックアップタスクが完了次第、メールで通知を送信する]
7. バックアップの保存先 [バックアップ]
8. [バックアップ] をクリックします。
9. バックアップが開始し、進行状況が表示されます。画面の情報を更新するには、[更新] をクリックします。
10. バックアップが完了するとバックアップマネージャ画面に戻ります。[存在するバックアップファイル] グループにサーバ上に保存されたバックアップファイルの一覧が表示されます。バックアップ結果がウィンドウに表示され、もしエラーが起こればエラーも一緒に表示されます。



ファイル名の右側に表示された  ボタンをクリックし、お使いのコンピュータにバックアップファイルをダウンロードして保存しておくことを推奨します。

5.3.2 復元

サイトを復元（リストア）するには以下の操作を実行します。



サイトの復元を行うと、バックアップ作成後に追加されたアカウントや Web コンテンツ、メンバーリストなどの設定は消去されます。あらかじめご了承ください。

1. ナビゲーションペインの「ホーム」から、[ファイル] グループの「バックアップマネージャ」アイコンをクリックします。
2. バックアップマネージャ画面が表示されますので、[バックアップ] グループから、復元したいバックアップファイルの名前をクリックします。
3. バックアップファイルの情報が表示されますので、内容を確認して [復元] をクリックします。復元を中断する場合は [キャンセル] をクリックします。
4. 復元が開始し、進行状況が表示されます。
5. 復元が完了すると復元結果がウィンドウに表示されます。復元が成功した場合もエラーが表示されますので、詳細欄の次の表示をご確認ください。
 - 「バックアップ <お客様ドメイン名> の復元が完了しました」と表示される → 復元は成功しています
 - 詳細欄には何も表示されず、エラーログのみ表示される → 復元は中断されました



復元の中断はリストアを実行されたタイミングにより発生します。バックアップマネージャ画面から復元を再度実行することで解消する可能性があります。復元が中断した場合は、お手数ですが、もう一度復元の操作をお試しください。

5.4 ドメイン管理者のパスワードを変更する

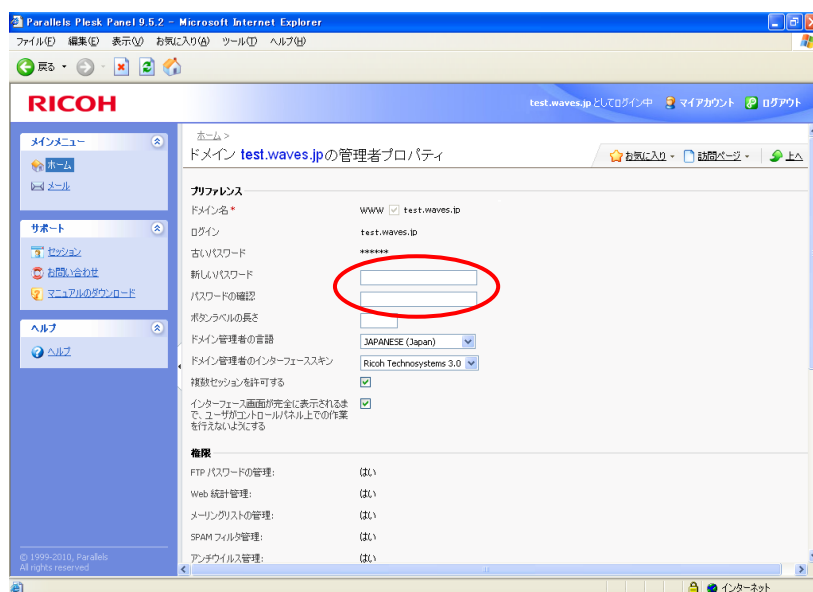
ここでは、ドメイン管理画面のログインパスワードを変更する方法について説明します。



セキュリティを高めるために定期的なパスワードの変更をお願いします。

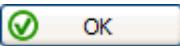
ヘッダの「マイアカウント」アイコンをクリックします。

1. 「新しいパスワード」、「パスワードの確認」ボックスに新パスワードを入力します。



パスワードは半角英数で 5～14 文字の間で指定してください。ログイン名（お客様ドメイン名）と同じ文字列は使用できません。

「パスワード確認」ボックスに再度、新パスワードを入力します。

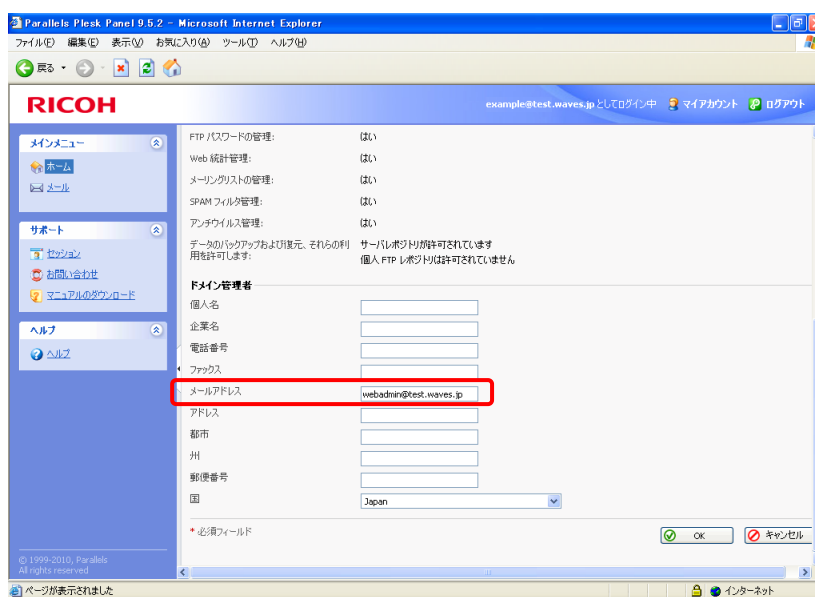
2.  ボタンをクリックすると、新しいパスワードが反映されます。

5.5 ドメイン管理者のメールアドレスを変更する

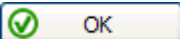
ホスティングサービスでは、メンテナンス通知など弊社からの重要なお知らせをお送りする宛先メールアドレスとして、ドメイン管理者のメールアドレス `webadmin@<お客様ドメイン名>` をご提供しております。また、ドメイン管理画面へログインするためのパスワードを紛失した場合に、ドメイン管理者のメールアドレスに対してパスワードを送信して確認することもできます。

ドメイン管理者のメールアドレスはドメイン管理画面上で自由に変更することができますので、弊社からのお知らせやパスワード通知メールを別のメールアドレスで受信したい場合、次の方法でドメイン管理者のメールアドレスを変更してください。

1. ヘッダの「マイアカウント」アイコンをクリックします。
2. [ドメイン管理者] グループの「メールアドレス」ボックスを任意のメールアドレスに変更します。



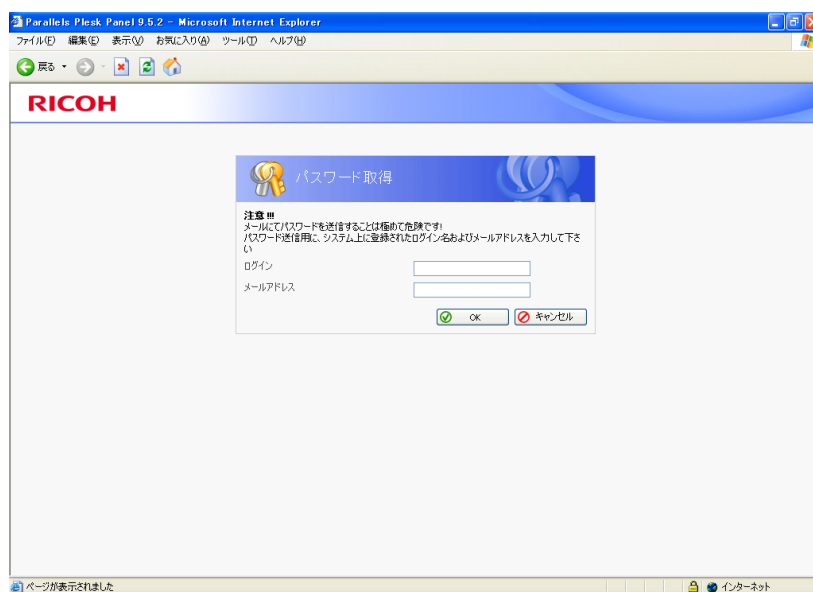
他社でご契約中のメールアドレスも登録することができます。

3.  ボタンをクリックすると、ドメイン管理者のメールアドレスが登録されます。

5.6 パスワードを再発行する

ドメイン管理画面やメールアカウント管理画面へのログインパスワードを忘れてしまった場合、ドメイン管理者のメールアドレス（メールアカウントのパスワードの場合は自分自身のメールアドレス）にパスワードを通知することができます。

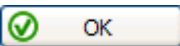
1. ログイン画面にアクセスします。[パスワードを忘れましたか?]をクリックすると、パスワード取得画面が表示されます。



2. ドメイン管理画面のパスワードを再発行する場合は、お客様ドメイン名と、ドメイン管理者のメールアドレスを入力します。メールアドレスのパスワードを再発行する場合は、ユーザ名・メールアドレスの両方に対象のメールアドレスを入力します。



ドメイン管理者のメールアドレスの初期値は `webadmin@<お客様ドメイン名>` です。初期値を変更する場合は[第 5 章 5.4 「ドメイン管理者のメールアドレスを変更する」](#)をご参照ください。

3.  ボタンをクリックすると、パスワードを記載したメールが所定のメールアドレスに送信されます。

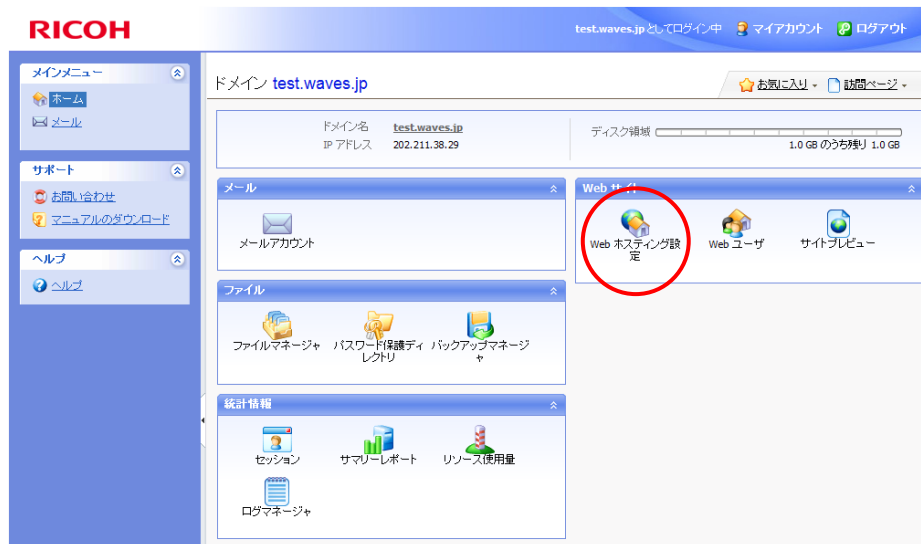
5.7 FTP のパスワードを変更する

ここでは、FTP のパスワードを変更する方法について説明します。



セキュリティを高めるために定期的なパスワードの変更をお願いします。

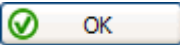
1. ホームの「Web ホスティング設定」アイコンをクリックします。



2. 「新しいパスワード」、「パスワードの確認」ボックスに新パスワードを入力します。



パスワードは半角英数で 5～14 文字で指定してください。
FTP ログインと同じ文字列を含むパスワードは設定できません。

3.  ボタンをクリックすると、新しいパスワードが反映されます。

5.8 メンテナンス通知を受信する

ホスティングサービスでは、メンテナンス通知などの重要なお知らせをユーザの皆様へメールでお送りします。通知メールをお送りする宛先はドメイン管理者のメールアドレス（初期値は `webadmin@<お客様ドメイン名>`）となります。また、どこにも送信できないエラーメールが最終的に配信される `postmaster` 宛のメールも `webadmin@<お客様ドメイン名>` に送信されます。

管理者の方はご利用開始時に、`webadmin@<お客様ドメイン名>`宛のメールを受信できるよう設定していただく必要があります。



`webadmin@<お客様ドメイン名>`から任意のアドレスへメールを転送することもできます。メール転送の設定方法は [第4章 4.3「メールを転送する」](#)をご覧ください。

ここでは、代表的なメールソフトである Outlook Express6 の設定方法をご説明します。

メール設定情報

・受信メールサーバ	pop.お客様ドメイン名
・送信メールサーバ	smtp.お客様ドメイン名
・アカウント名	webadmin@お客様ドメイン名
・パスワード	設定情報確認書に記載

1. Outlook Express を起動し、メニューの「ツール」→「アカウント」→「メールタブ」を開きます。
2. [追加] ボタンをクリックして「メール」を選択し、ウィザードに従ってアカウントを作成していきます。
3. 電子メールサーバ名設定画面が表示されますので、以下のように設定します。

インターネット接続ウィザード

電子メール サーバー名

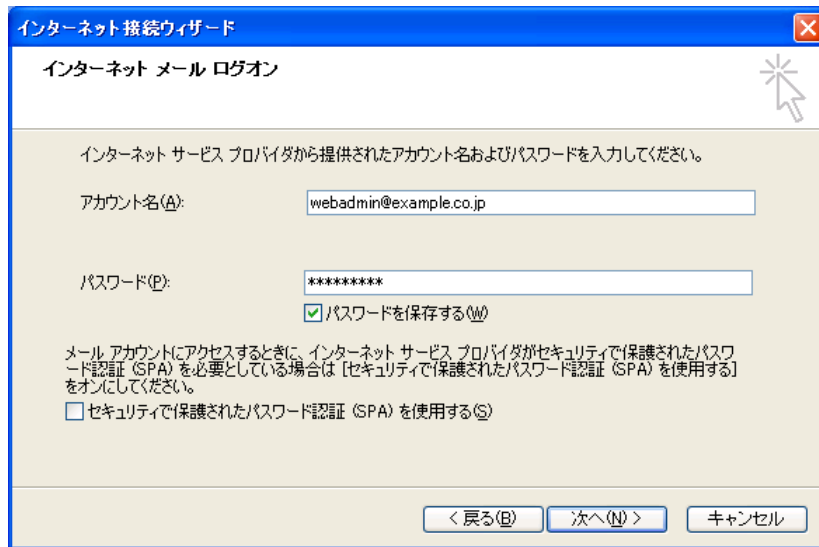
受信メール サーバーの種類(S) POP3

受信メール (POP3、IMAP または HTTP) サーバー名:
pop.example.co.jp

SMTP サーバーは、電子メールを送信するときに使用するサーバーです。
送信メール (SMTP) サーバー名:
smtp.example.co.jp

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

4. インターネットメールログオン設定画面が表示されますので、以下のように設定します。

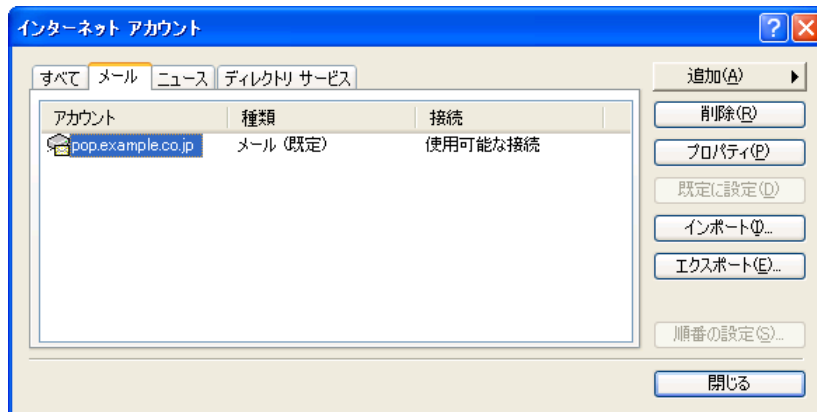


(1) アカウント名の欄に webadmin@<お客様ドメイン名>と入力します。

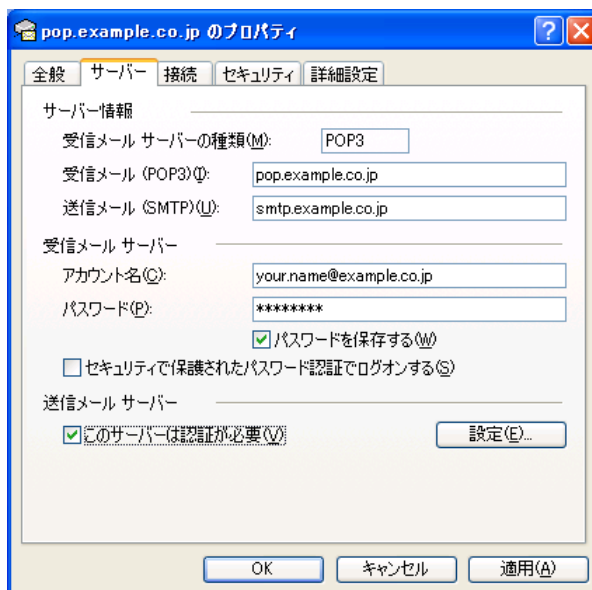
(2) 設定情報確認書に記載されておりますメンテナンス通知アドレスのパスワードを入力します。

5. [次へ] をクリックすると完了画面が表示されますので、[完了] ボタンをクリックします。

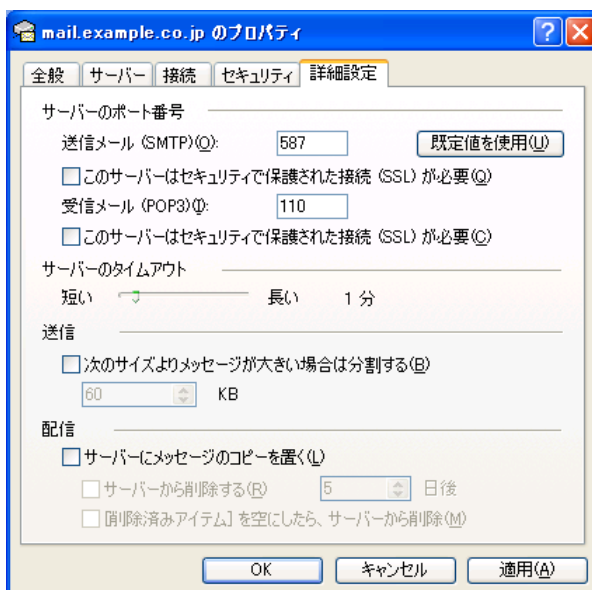
6. インターネットアカウント画面が表示されますので、作成したアカウントをダブルクリックします。



7. サーバタブを開き、「このサーバーは認証が必要」チェックボックスにチェックを入れます。



8. 詳細設定タブを開き、送信メール (SMTP) のポート番号を 587 に変更します。



9. [適用] > [OK] の順にクリックして、設定を保存します。

インターネットアカウント画面に戻りますので、[閉じる] をクリックして設定を終了します。

5.9 外部 DNS サーバを利用する

BB パックを除くホスティングサービスでは、外部 DNS サーバを利用してドメインを運用することも可能です。

外部 DNS サーバを利用される場合、プライマリ DNS サーバの正引きゾーンファイルに以下のレコードを設定します。ホスティングサーバの IP アドレスは管理画面をご確認ください。

ホスト名	レコードの種類	ホスト情報
	MX	10 mail
	MX	20 mx2.TechnoWave.NE.JP
(なし)	A	***.***.***.*** ; (ホスティングサーバの IP アドレス)
mail	A	***.***.***.*** ; (ホスティングサーバの IP アドレス)
www	CNAME	mail
pop	CNAME	mail
smtp	CNAME	mail
webmail	CNAME	mail
lists	CNAME	mail



外部 DNS サーバのご利用には別途お申し込みが必要です。詳しくは担当営業までご相談ください。



MX レコードを変更して外部メールサーバにてメールを運用される場合、ホスティングサービスのメールサーバ機能を無効化してください。メール無効化の方法については[第 4 章 4.11 「メールサーバ機能を停止する」](#)をご参照ください



弊社にてスレーブ DNS サーバを提供する場合、下記の DNS サーバに対してゾーン転送を許可するように設定してください。

name.technowave.ad.jp (202.211.32.70)

Windows、Internet Explorer、および Outlook Express は Microsoft Corporation の登録商標です

※ その他、本マニュアルに記載されている会社名、製品名、サービス名、およびロゴマーク等は、いずれも各社の商標または登録商標です。

※ 本マニュアルの画面や文字列にサンプルとして使用している会社名、氏名等は全て架空のものです。

お問い合わせ先

リコージャパン株式会社 リコープロバイダ担当

ご質問はリコーセンターサービスホームページよりお問い合わせフォームにてお願いいたします

お問い合わせフォーム <http://itkeeper.ricoh.co.jp/isp/contact/>

フリーダイヤル  0120-060-799

受付時間 月曜～日曜 9:00 ～ 21:00

(年末、年始、および弊社の定める休日を除く)